

令和6年度 情報モラル調査結果

岐阜県教育委員会

【 実施概要 】

<調査対象> 岐阜県内公立の小中高等学校及び特別支援学校高等部
 小学校 1年～6年の児童
 中学校 1年・2年・3年の生徒
 高等学校 1年・2年・3年の生徒
 特別支援学校 高等部 1年・2年・3年の生徒

<調査方法> 各学校で、校舎別・課程別・学年別に1クラス以上を抽出し、アンケート調査を実施

<実施期間> 令和6年 9月～10月

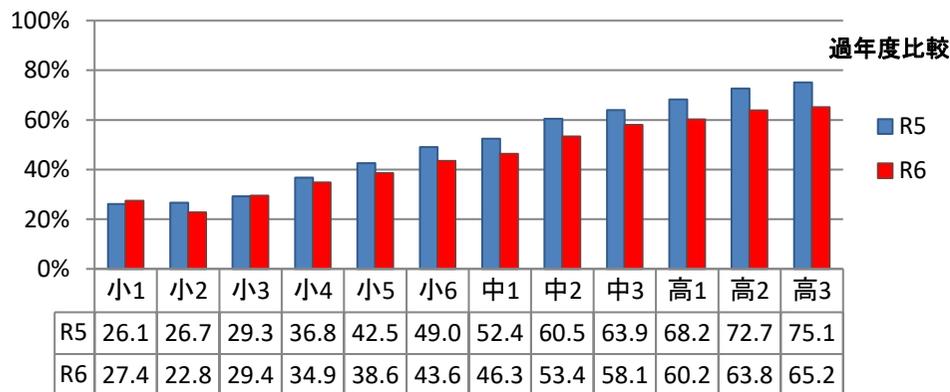
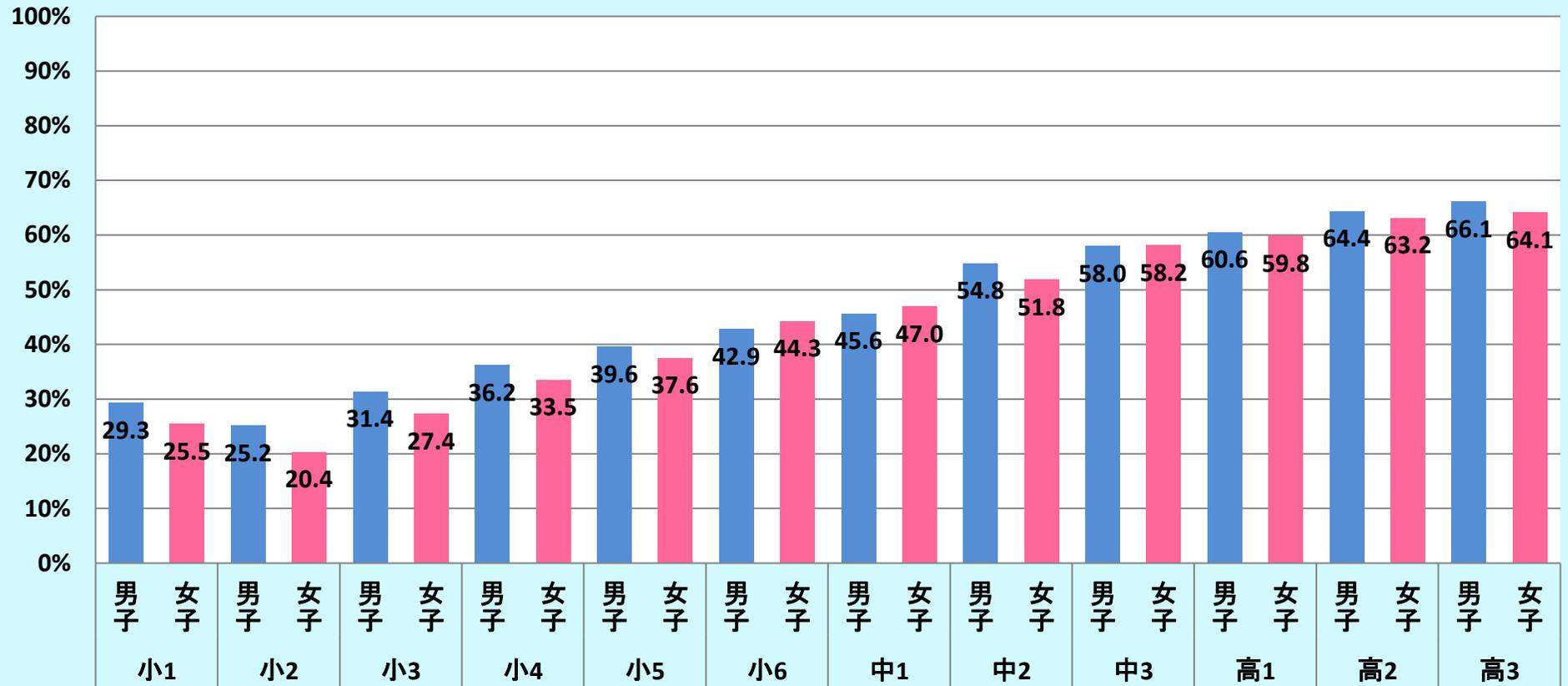
<調査数> (令和6年度) ※「高」は特別支援学校高等部を含む

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
学校数	343	343	343	343	343	343	177	177	177	88	88	88	343	177	88	608
人数	7,317	7,354	7,767	7,827	8,046	8,525	6,505	6,240	6,233	4,152	3,926	3,871	46,836	18,978	11,949	77,763
男子	3,665	3,659	3,972	3,894	4,090	4,238	3,248	3,196	3,154	2,211	2,113	2,037	23,518	9,598	6,361	39,477
女子	3,652	3,695	3,795	3,933	3,956	4,287	3,257	3,044	3,079	1,941	1,813	1,834	23,318	9,380	5,588	38,286
男女比(%)	50 : 50	50 : 50	51 : 49	50 : 50	51 : 49	50 : 50	50 : 50	51 : 49	51 : 49	53 : 47	54 : 46	53 : 47	50 : 50	51 : 49	53 : 47	51 : 49

(令和5年度)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
学校数	353	353	353	353	353	353	177	177	177	88	88	88	353	177	88	618
人数	8,267	8,902	8,923	9,232	9,255	9,927	8,496	7,047	7,327	4,839	4,741	4,611	54,506	22,870	14,191	91,567
男子	4,140	4,550	4,433	4,675	4,609	5,000	4,339	3,534	3,703	2,346	2,220	2,227	27,407	11,576	6,793	45,776
女子	4,127	4,352	4,490	4,557	4,646	4,927	4,157	3,513	3,624	2,493	2,521	2,384	27,099	11,294	7,398	45,791
男女比(%)	50 : 50	51 : 49	50 : 50	51 : 49	50 : 50	50 : 50	51 : 49	50 : 50	51 : 49	48 : 52	47 : 53	48 : 52	50 : 50	51 : 49	48 : 52	50 : 50

Q1. 家に、インターネット接続ができて、あなたが使えるパソコンはありますか。



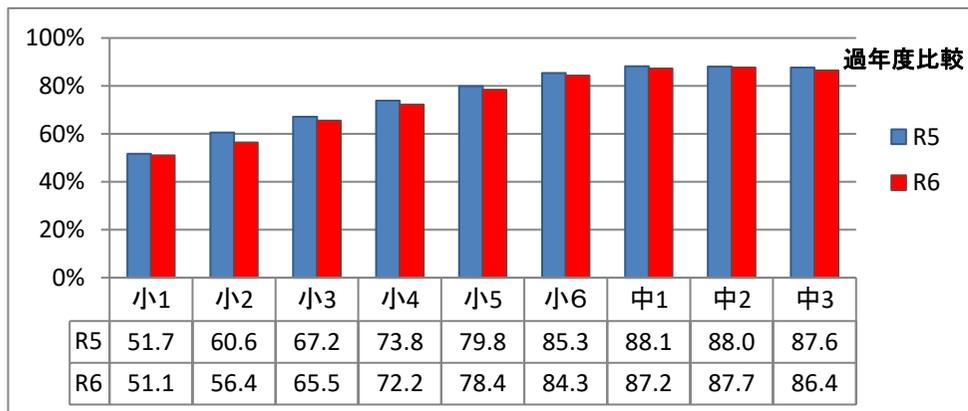
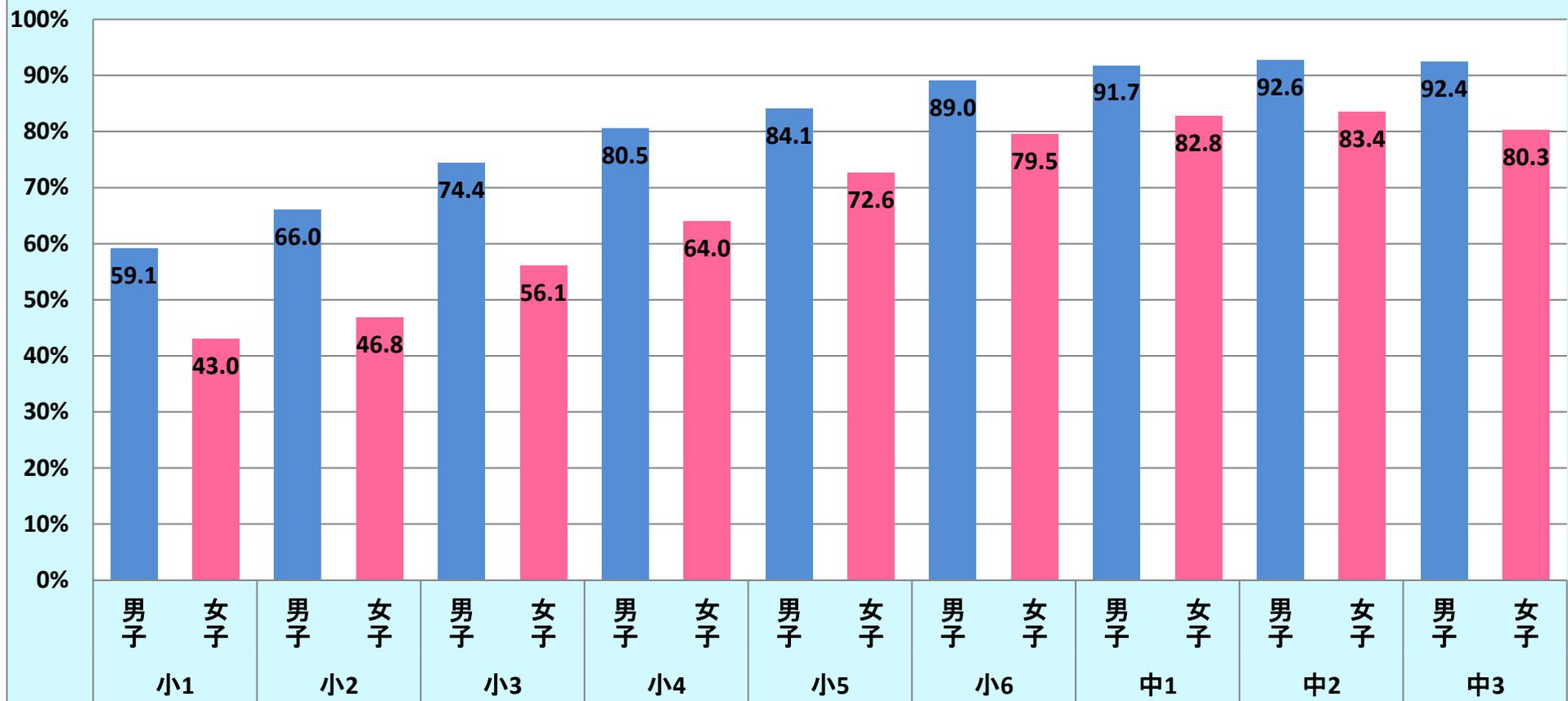
【傾向】

- ・学年が上がるにつれ、インターネットに接続できる環境がある。
- ・前年度と比較し、ほとんどの学年で減少傾向又は同等の割合が見られるが、小学1年生のみ増加傾向が見られる。

【指導・啓発ポイント】

- ・セキュリティソフトがインストールされているか確認が必要。
- ・大人がクレジットカード情報等を記憶させた状態で使用していると、子どもがそのまま使用可能となるため要注意。
- ・小学校低学年においても家庭内の丁寧な見届けが必要。

Q2.あなたは、通信型ゲーム機や携帯音楽プレーヤーをもちますか。



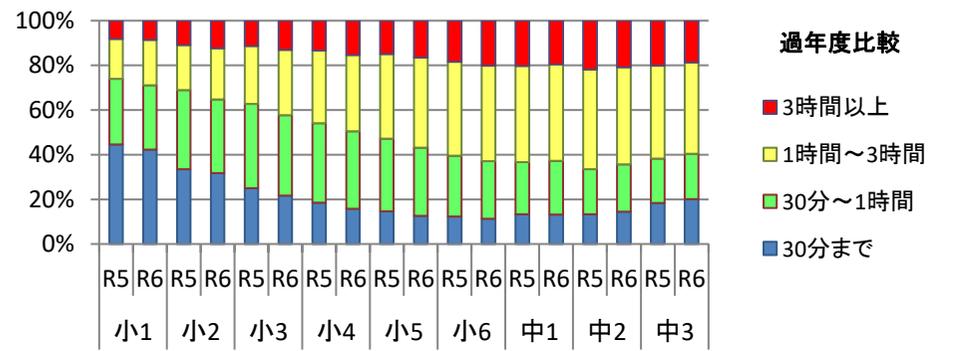
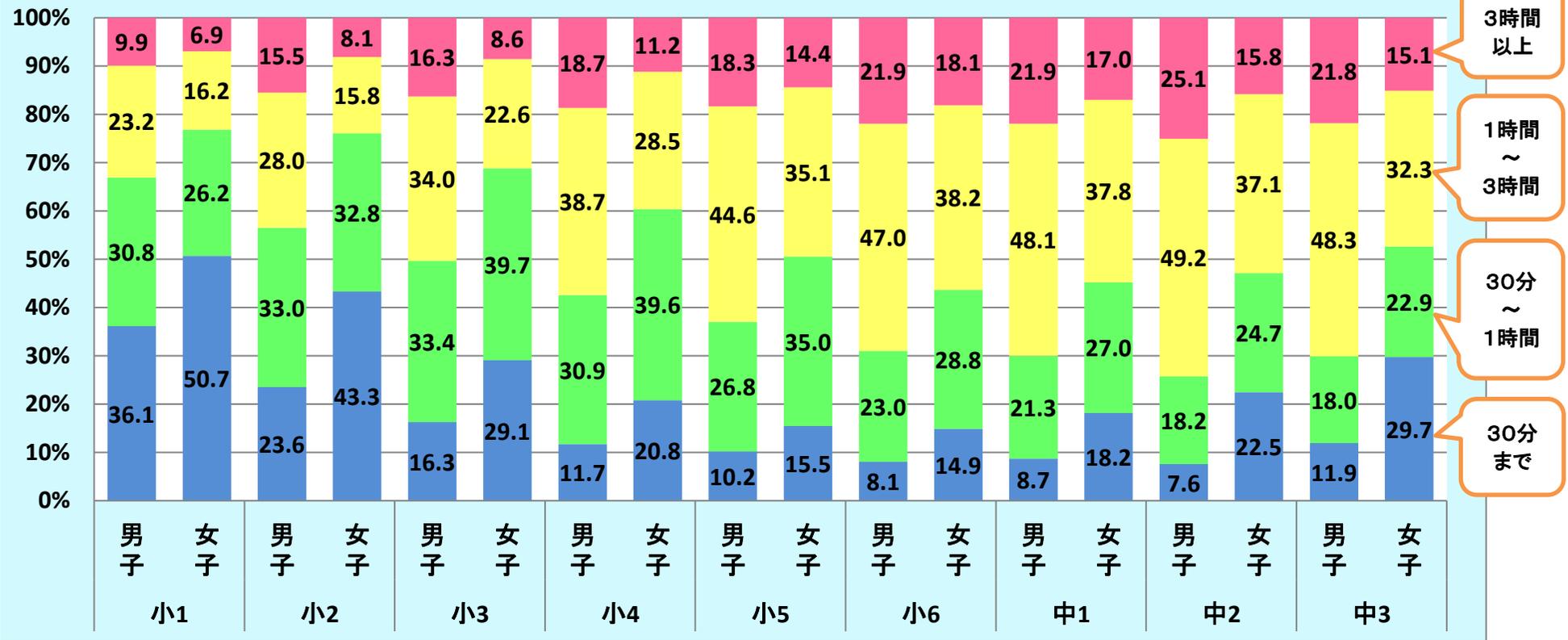
【傾向】

- ・学年が上がるにつれ、所持率が高くなる傾向あり。
- ・どの学年も男子の所持率が非常に高い。

【指導・啓発ポイント】

- ・通信型ゲーム機からでもインターネット接続は可能であるため、面識のない者同士つながることができる。犯罪に巻き込まれないよう安易に個人情報を掲載しないこと等、継続した啓発が必要。

Q3.通信型ゲーム機の使用時間は、平日一日あたりどれくらいですか。
 (Q2で「もっている」と答えた児童生徒のみ回答)



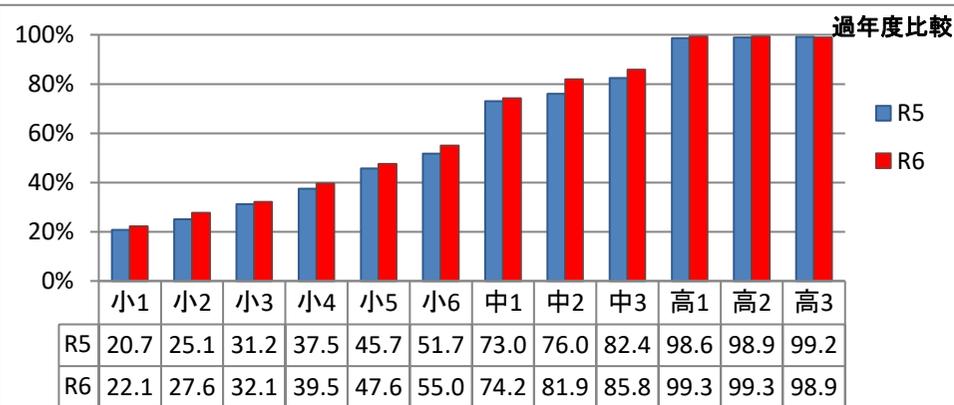
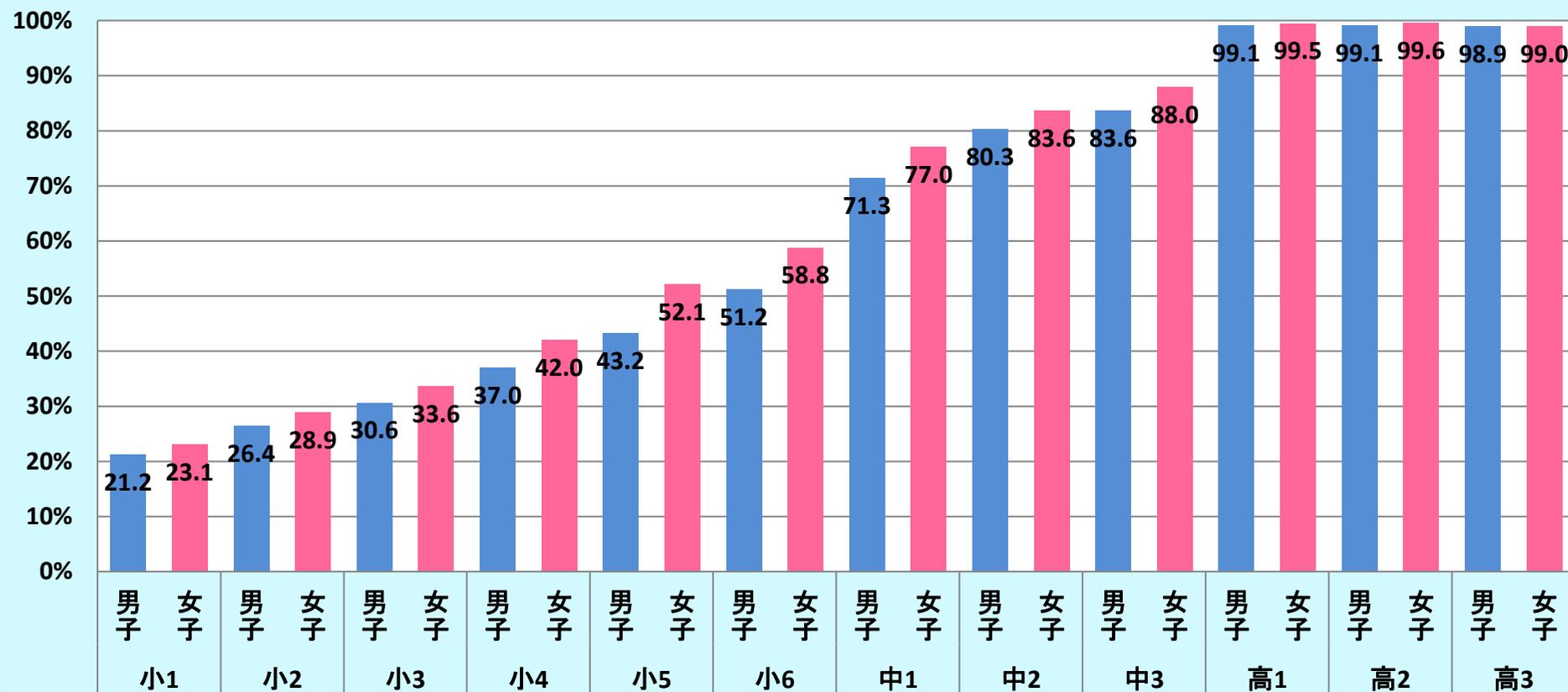
【傾向】

- ・学年が上がるにつれ、使用時間が長くなる傾向あり。
- ・どの学年も男子の使用時間が長い。

【指導・啓発ポイント】

- ・家庭でのルールづくりや定期的なルールの見直しについて、児童生徒だけではなく、保護者への啓発も継続する。

Q4. あなたは、自分の携帯電話を持っていますか。



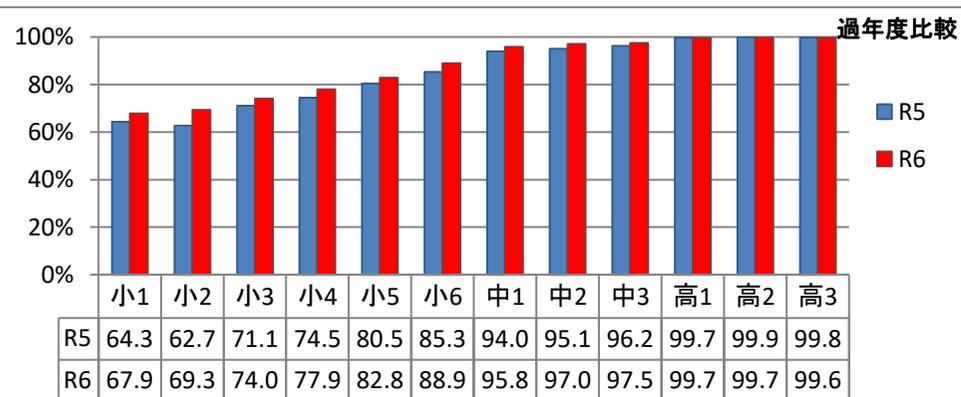
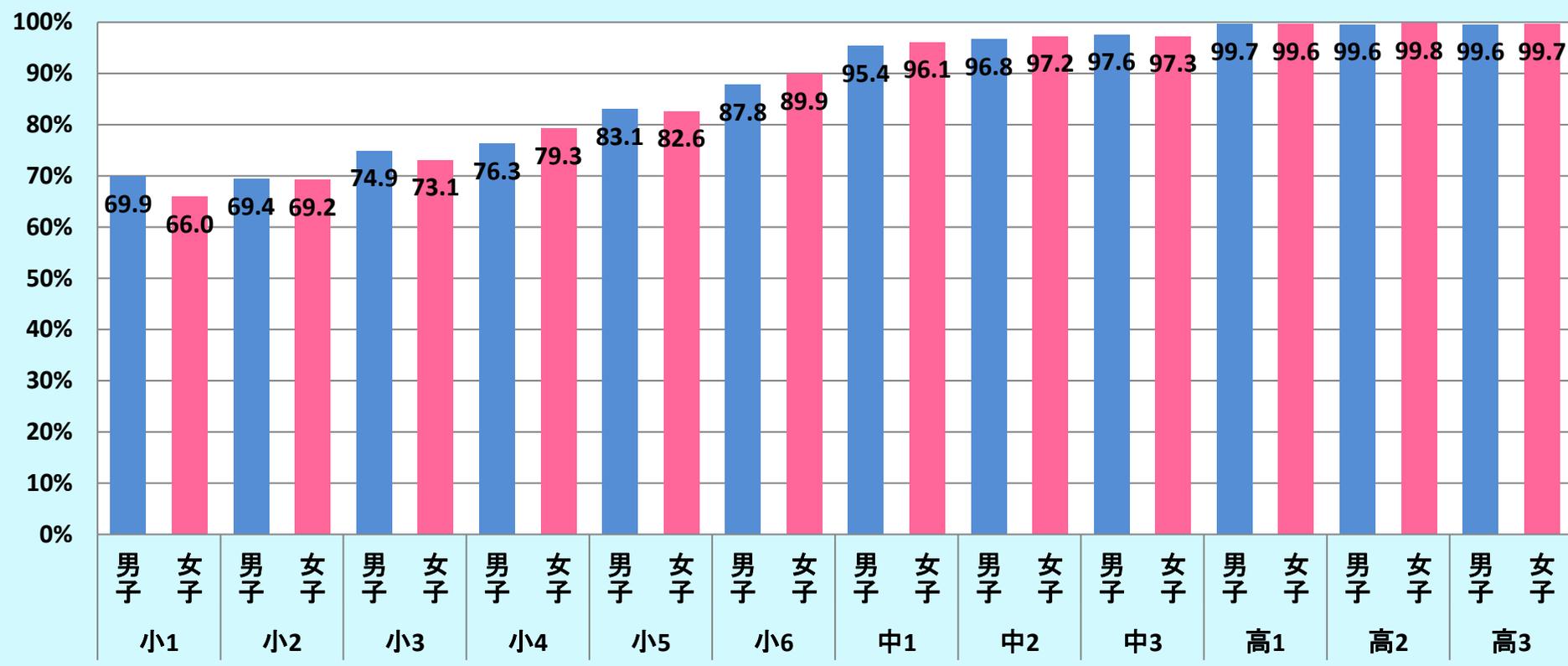
【傾向】

- ・ほとんどの学年で、女子の所持率が高い。
- ・高校生は男女ともほぼすべての生徒が所持している。
- ・前年度と比較し、すべての学年で所持率が増加又は同等の割合。
- ・中学校、高校への進学タイミングでの所持率の増加が見られる。

【指導・啓発ポイント】

- ・フィルタリング(ペアレンタルコントロール)の設定は、子どもの安全を守るために不可欠であることを保護者に認識していただくよう、継続的に周知。

Q5.あなたの携帯電話は、スマートフォンですか。
 (Q4で携帯電話を「持っている」と答えた児童生徒のみ回答)



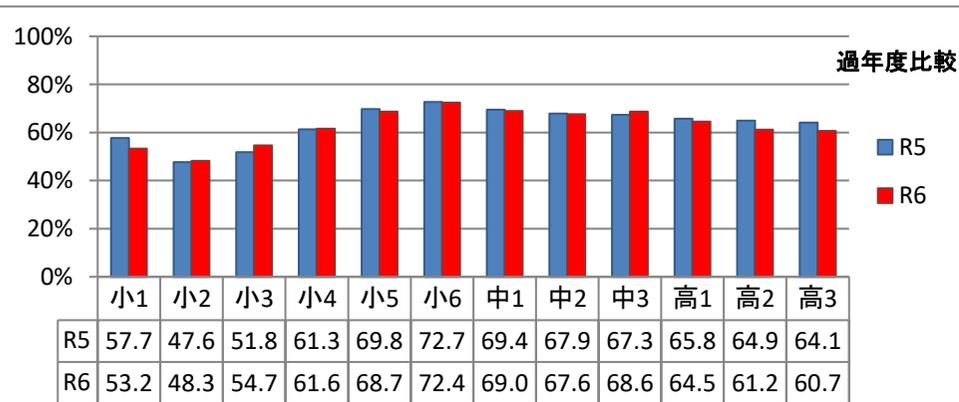
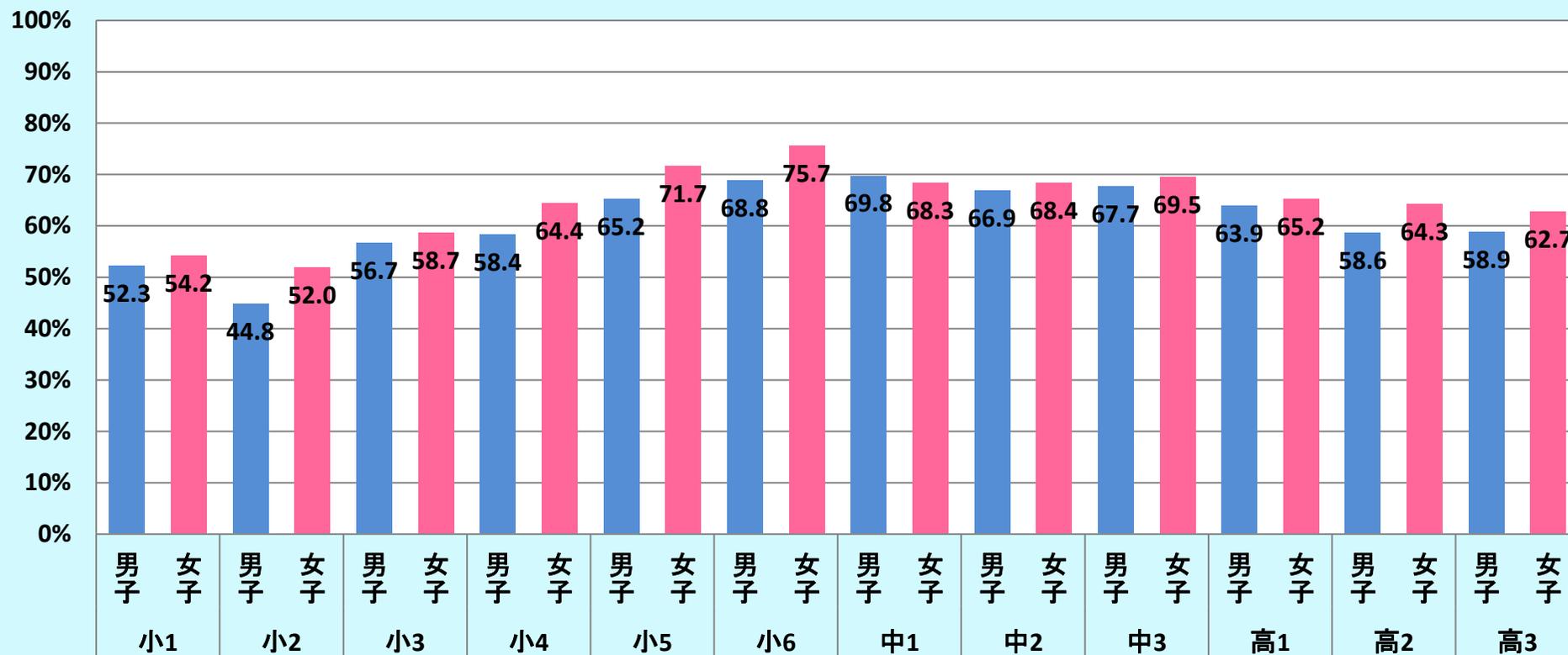
【傾向】

- ・携帯電話を所持している者の内、中高生の90%以上がスマートフォン。
- ・前年度と比較し、スマートフォンの所持率が増加。特に、小学校低学年の増加が顕著。

【指導・啓発ポイント】

- ・有害サイトへアクセスする危険性が増すため、フィルタリング(ペアレンタルコントロール)設定の重要性について啓発する。

Q6.フィルタリングをしていますか。
 (Q4で携帯電話を「もっている」と答えた児童生徒のみ回答)



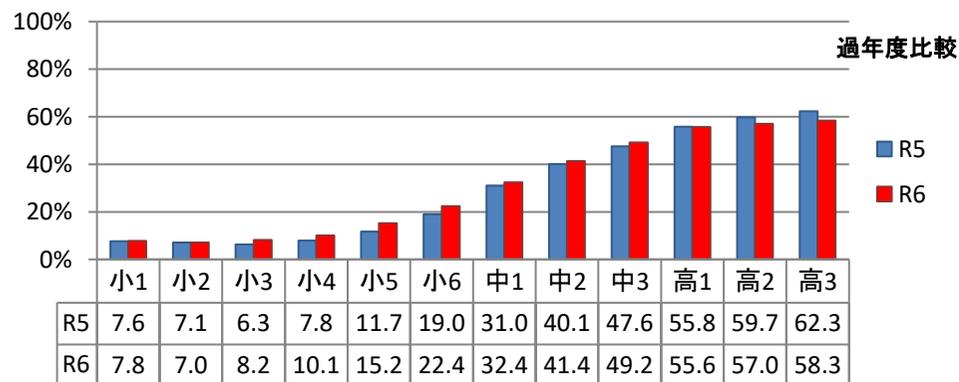
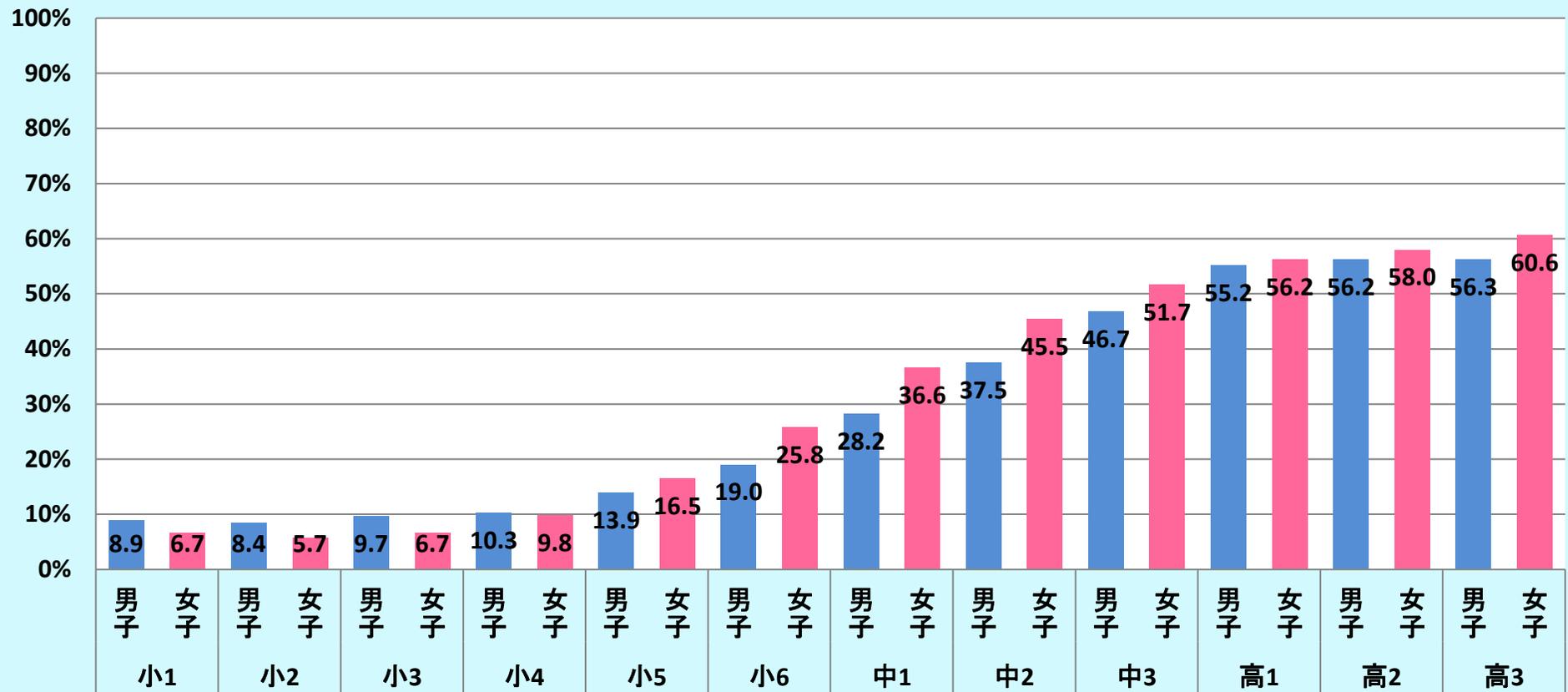
【傾向】

- ・小学校低学年の設定率が低い。小学1年生では低下が見られる。
- ・ほとんどの学年で、女子の設定率が高い。
- ・前年度と比較し、高校生の設定率が減少。

【指導・啓発ポイント】

- ・犯罪被害について明示しながら、フィルタリングを設定することは、自らの安全を守ることににつながることを、繰り返し周知する必要がある。

Q7.あなたは、インターネットや携帯電話でSNSに書き込みをしたことがありますか。



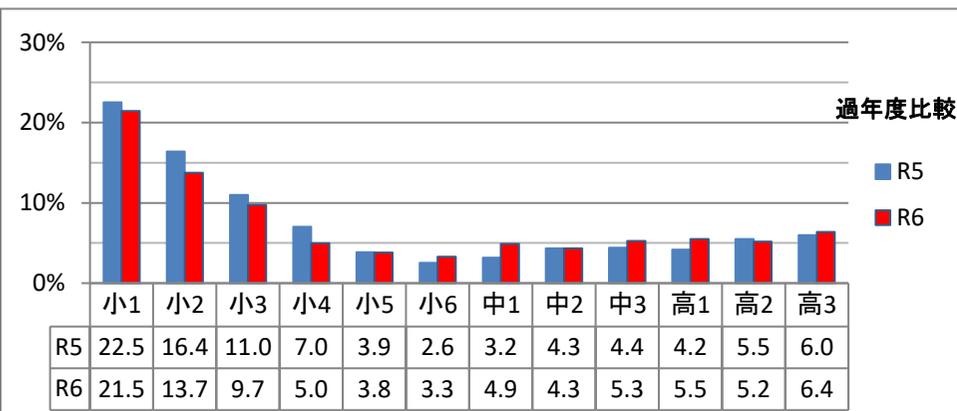
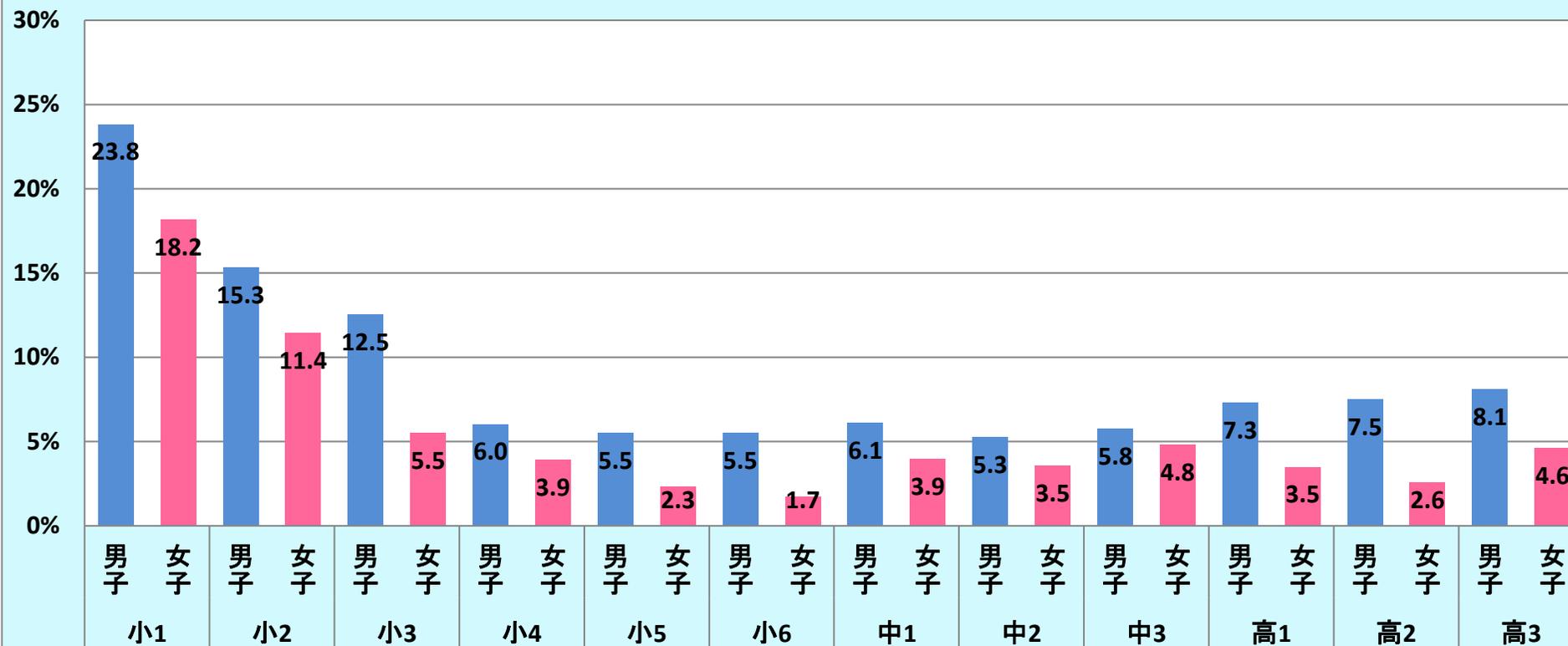
【傾向】

- ・学年が上がるにつれ、書き込み率が上昇。
- ・小学校高学年以降は、女子の書き込み率が高い。
- ・前年度と比較し、小・中学生の書き込み率が増加。

【指導・啓発ポイント】

- ・SNSに他人を誹謗中傷するような書き込みをすることは、侮辱罪や名誉毀損罪等にもつながる行為であることを踏まえ、学校や家庭において継続的に指導する。

Q8.あなたは、他人の悪口や個人情報を公開するような書き込みをしたことがありますか。
 (Q7で「書き込みをしたことがある」と答えた児童生徒のみ回答)



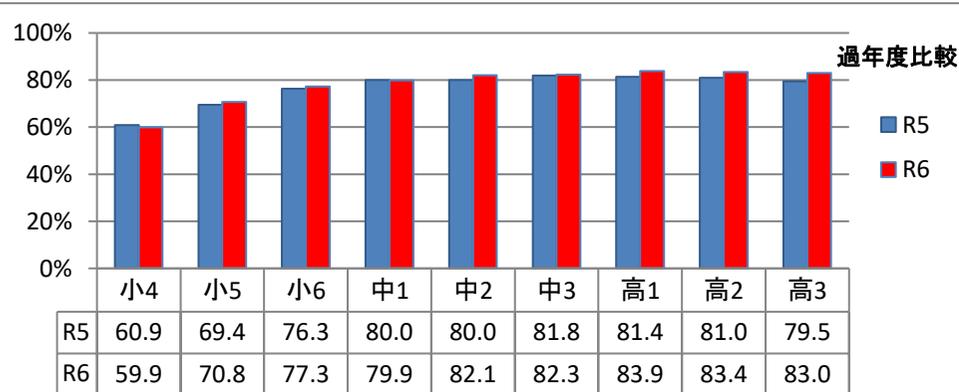
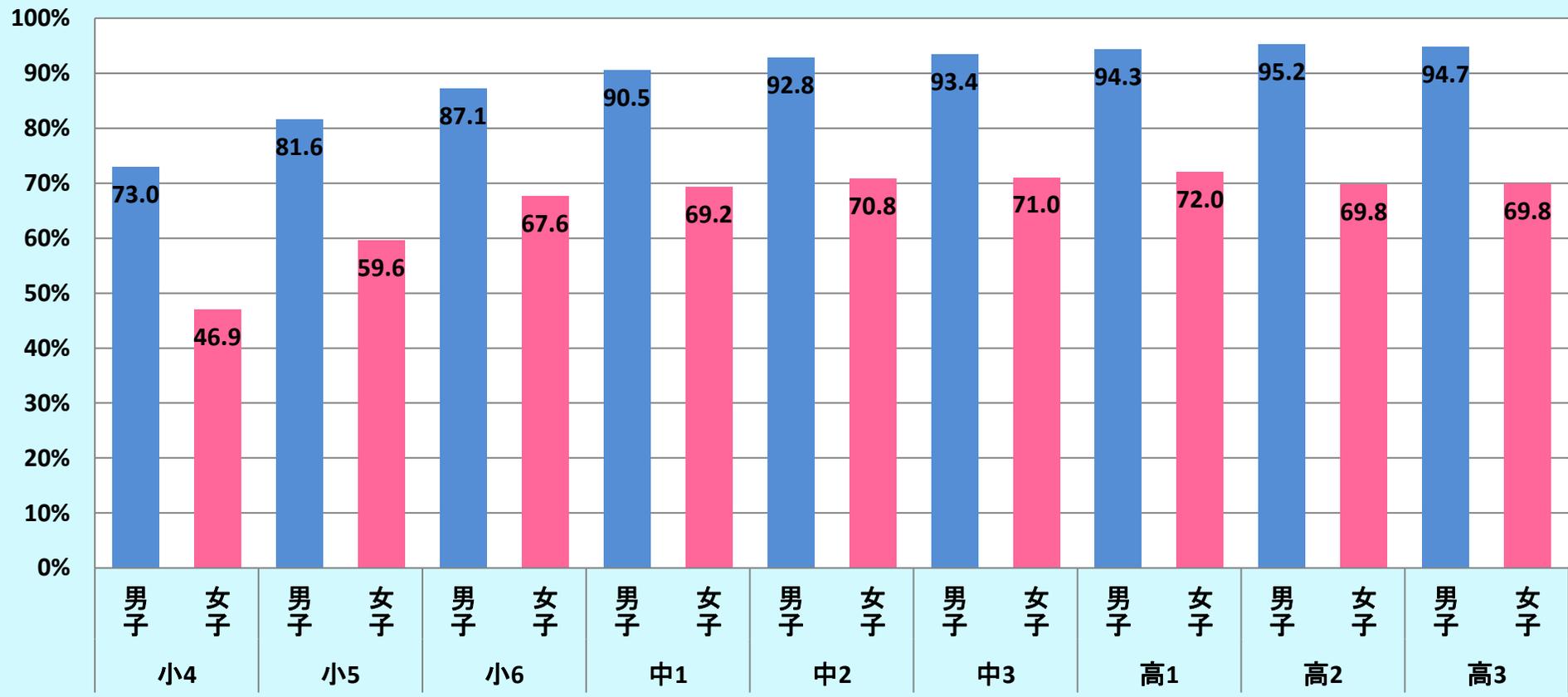
【傾向】

- ・小学校低学年の書き込み率が高い。特に、小学1年生の書き込み率が高い。
- ・ほとんどの学年で、男子の書き込み率が高い。
- ・前年度と比較し、中高生の書き込み率が増加。特に、中学1年生、高校1年生が顕著。

【指導・啓発ポイント】

- ・小学校の早い段階から、スマートフォンの正しい使用の仕方やトラブルに発展する危険性について、繰り返し教え込む必要がある。

Q9.あなたは、オンラインゲームをしたことがありますか。



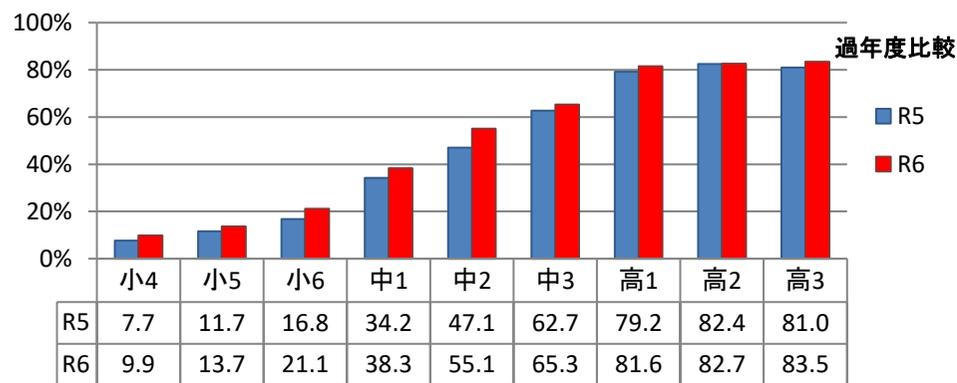
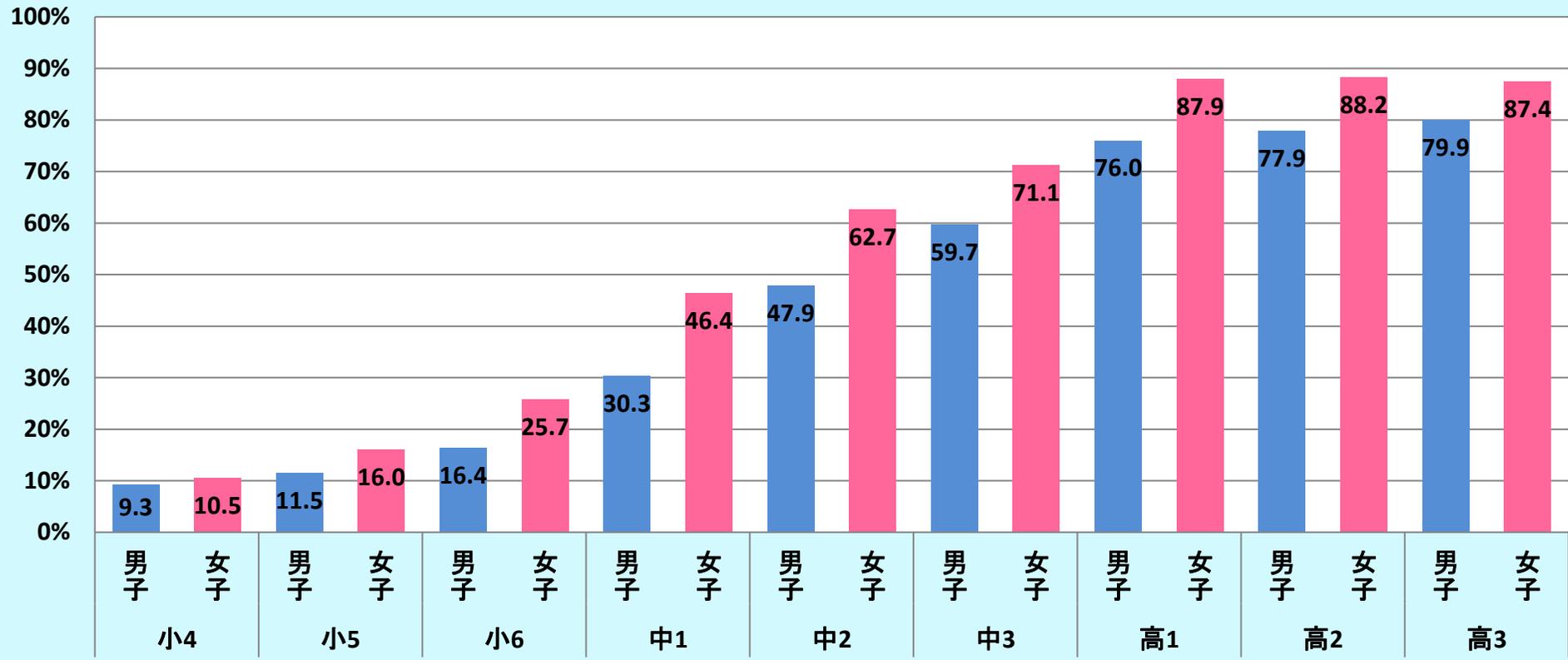
【傾向】

- ・どの学年も男子の利用率が高い。中・高生は、90%を超えている。
- ・前年度と比較し、小学生が若干の増加傾向。

【指導・啓発ポイント】

- ・チャットで交流できるオンラインゲームがあるため、犯罪や大きなトラブルに発展しないよう、継続的な注意喚起が必要。

Q10.あなたは、携帯電話やパソコンから見る事ができる自分のホームページ
(ブログ・インスタ等を含む)をもっていますか。



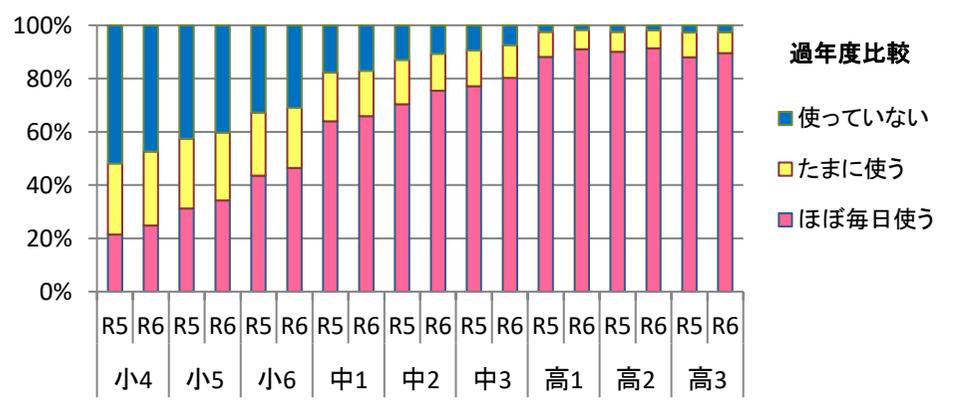
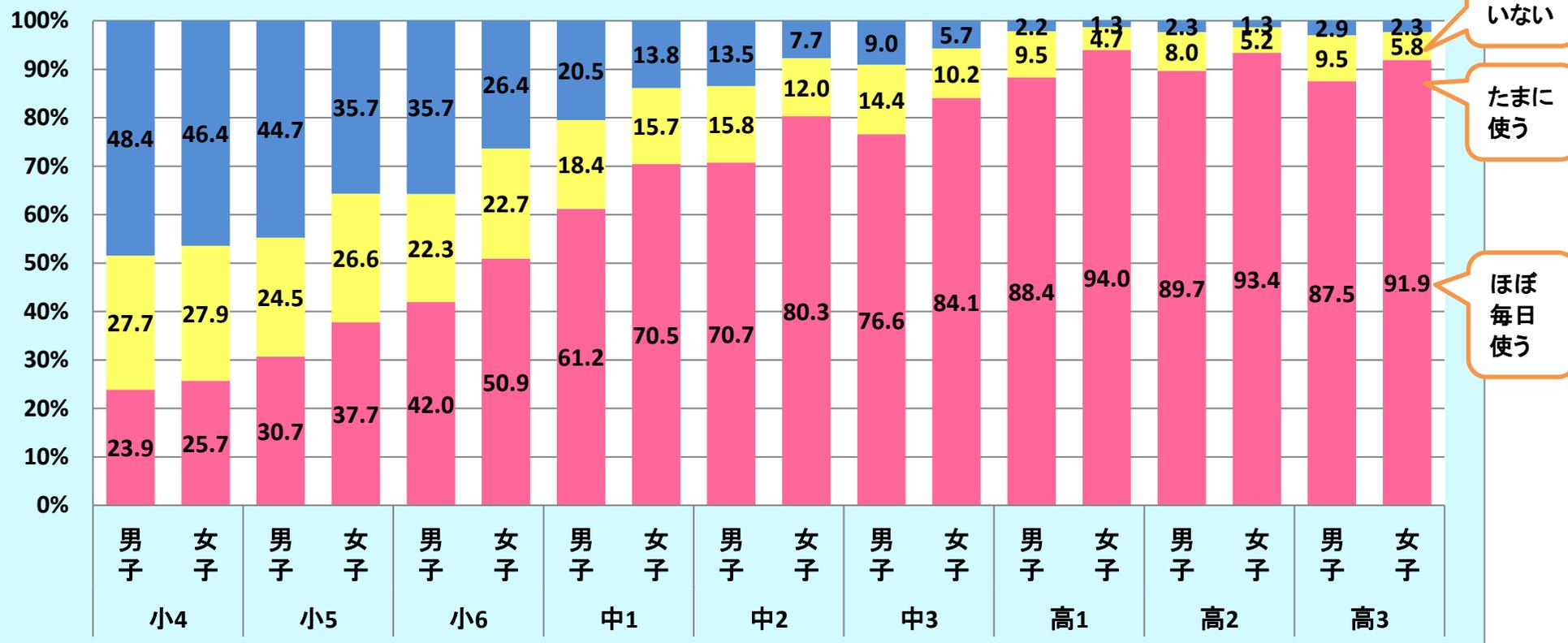
【傾向】

- ・学年が上がるにつれ、開設率が高くなる傾向。
- ・どの学年も女子の開設率が高い。
- ・前年度と比較し、小・中学生の開設率が増加している。

【指導・啓発ポイント】

- ・個人情報を掲載することで、犯罪に巻き込まれるリスクが高くなることを踏まえ、自分だけでなく、家族や友人の情報についても、安易に掲載しないよう継続した指導が必要。

Q11.ホームページを見たり、メールやチャット、SNS、オンラインゲームをしたりするために、携帯電話をどれくらい使いますか。



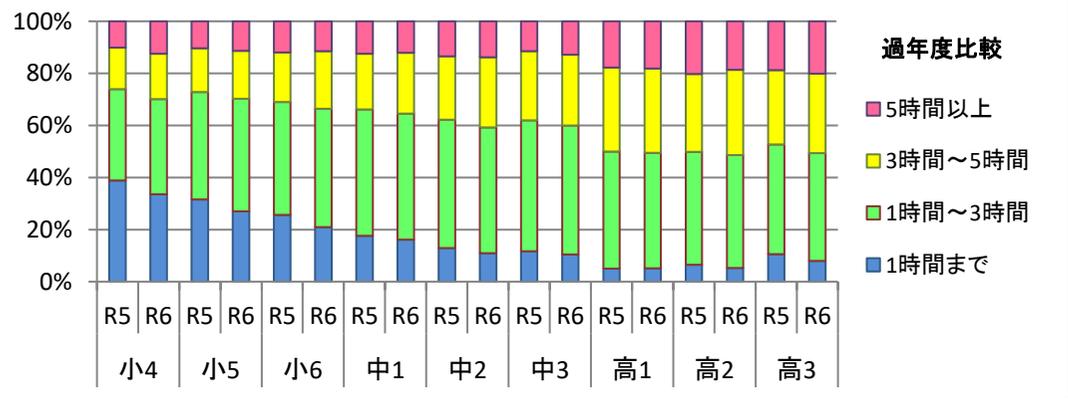
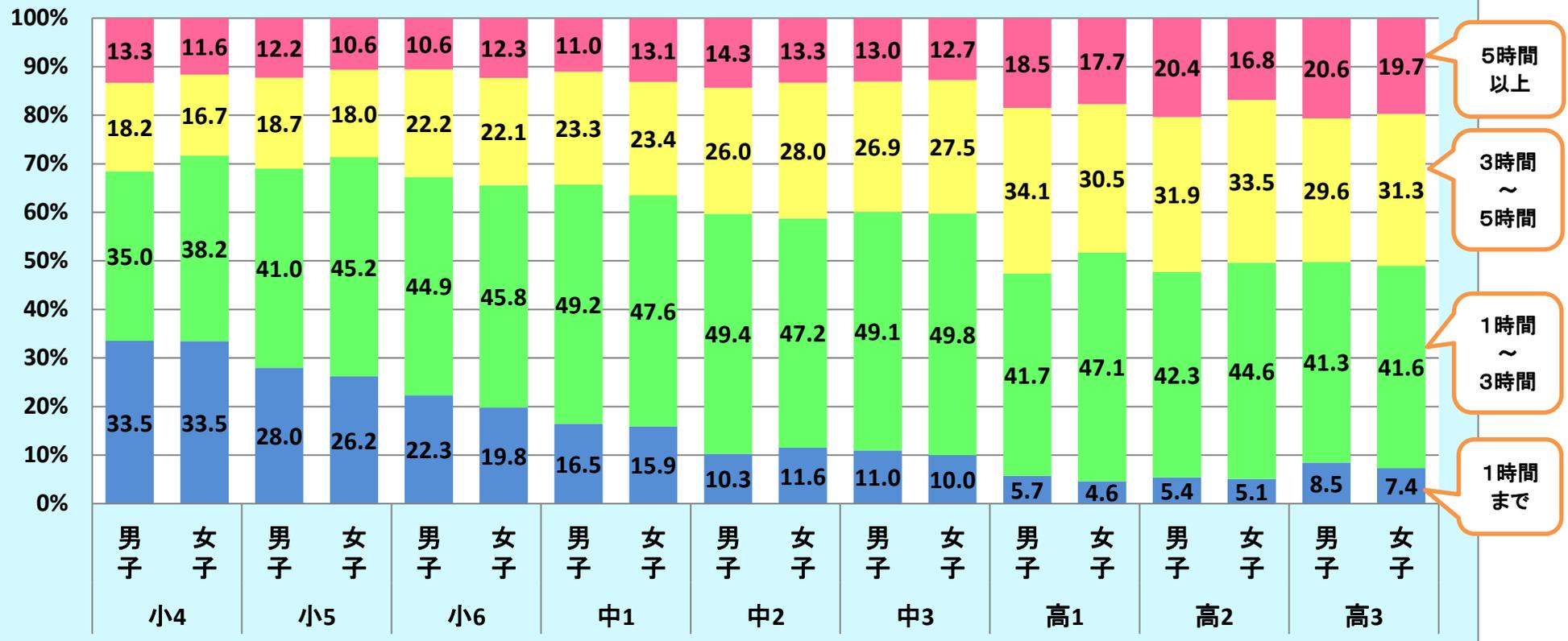
【傾向】

- ・男女とも学年が上がるにつれ、使用率が高くなる傾向。
- ・前年度と比較し、全学年「ほぼ毎日使う」割合が増加。

【指導・啓発ポイント】

- ・携帯電話(スマートフォン含む)の使用時間や使用方法等、家庭でのルールづくりや定期的なルールの見直しについて、児童生徒だけでなく、保護者への啓発も継続する。特に、保護者に対しては、ペアレンタルコントロールの必要性について周知する。

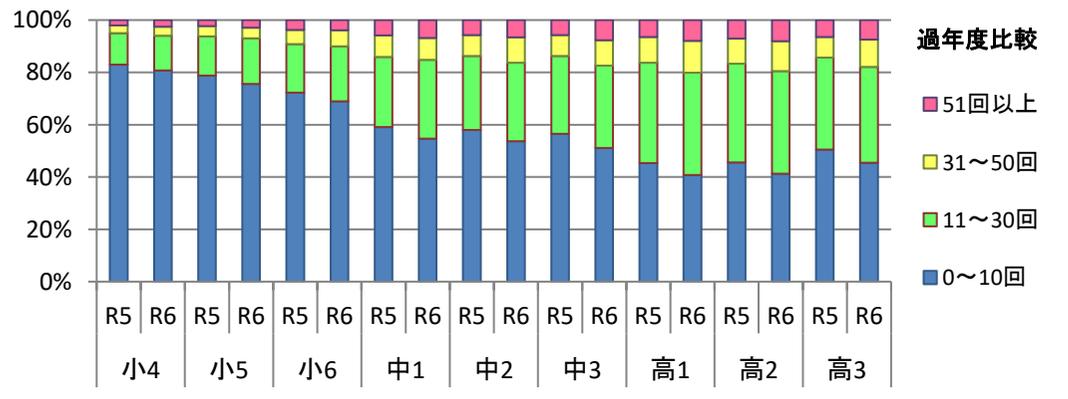
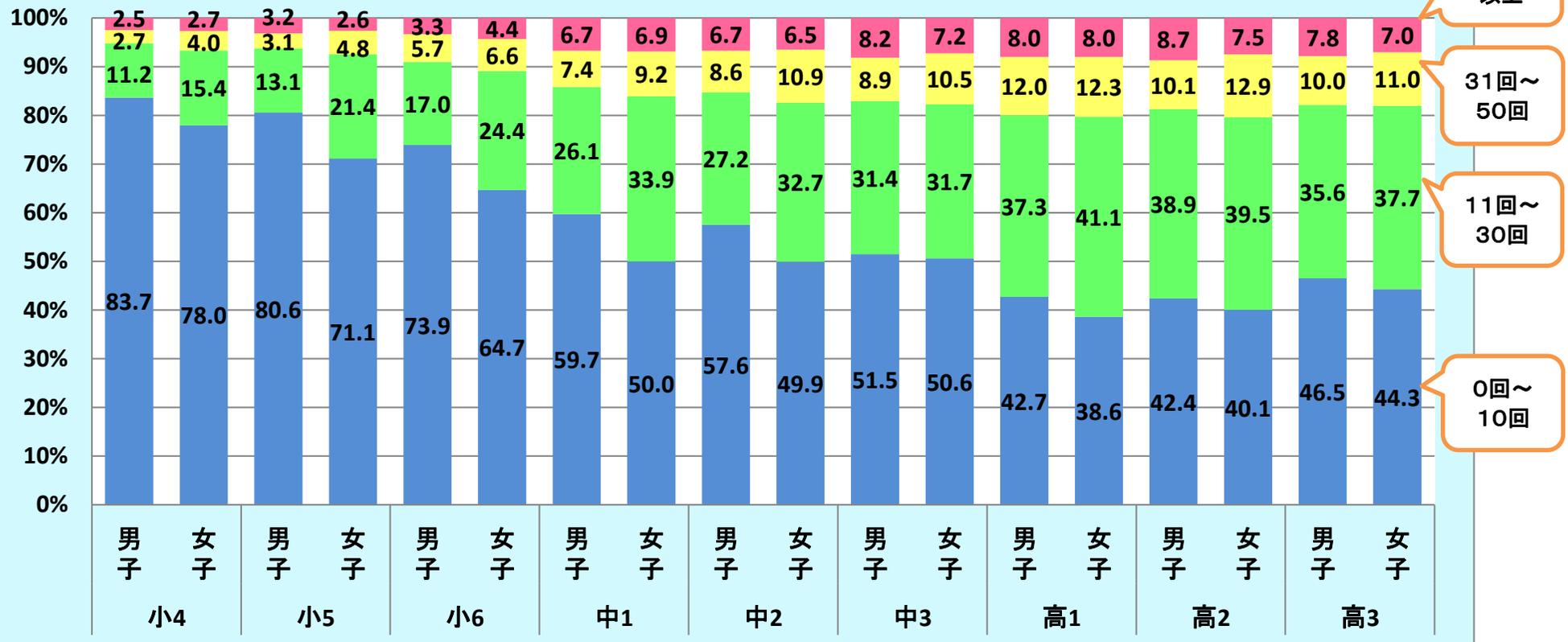
Q12.使用時間は一日あたりどれくらいですか。
 (Q11で「ほぼ毎日使う」と答えた児童生徒のみ回答)



【傾向】
 ・学年が上がるにつれ、使用時間「1時間まで」は減少傾向。
 ・前年度と比較し、ほとんどの学年で、「5時間以上」をはじめ使用時間が増加。

【指導・啓発ポイント】
 ・長時間使用は、ネット依存やスマホ依存につながる可能性が高くなる。保護者が子どもの使用時間等をモニタリングしたり制限したりできるペアレンタルコントロールの活用を周知する。

Q13.電子メールは、一日に何回ぐらい使いますか。
 (Q11で「ほぼ毎日使う」「たまに使う」と答えた児童生徒のみ回答)



【傾向】

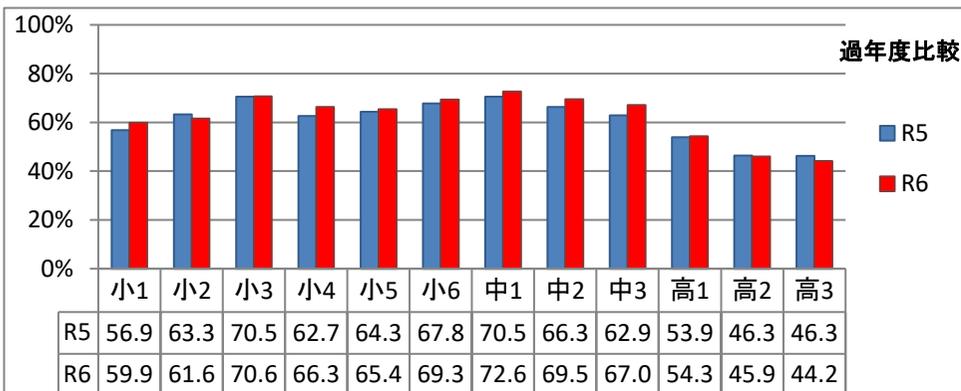
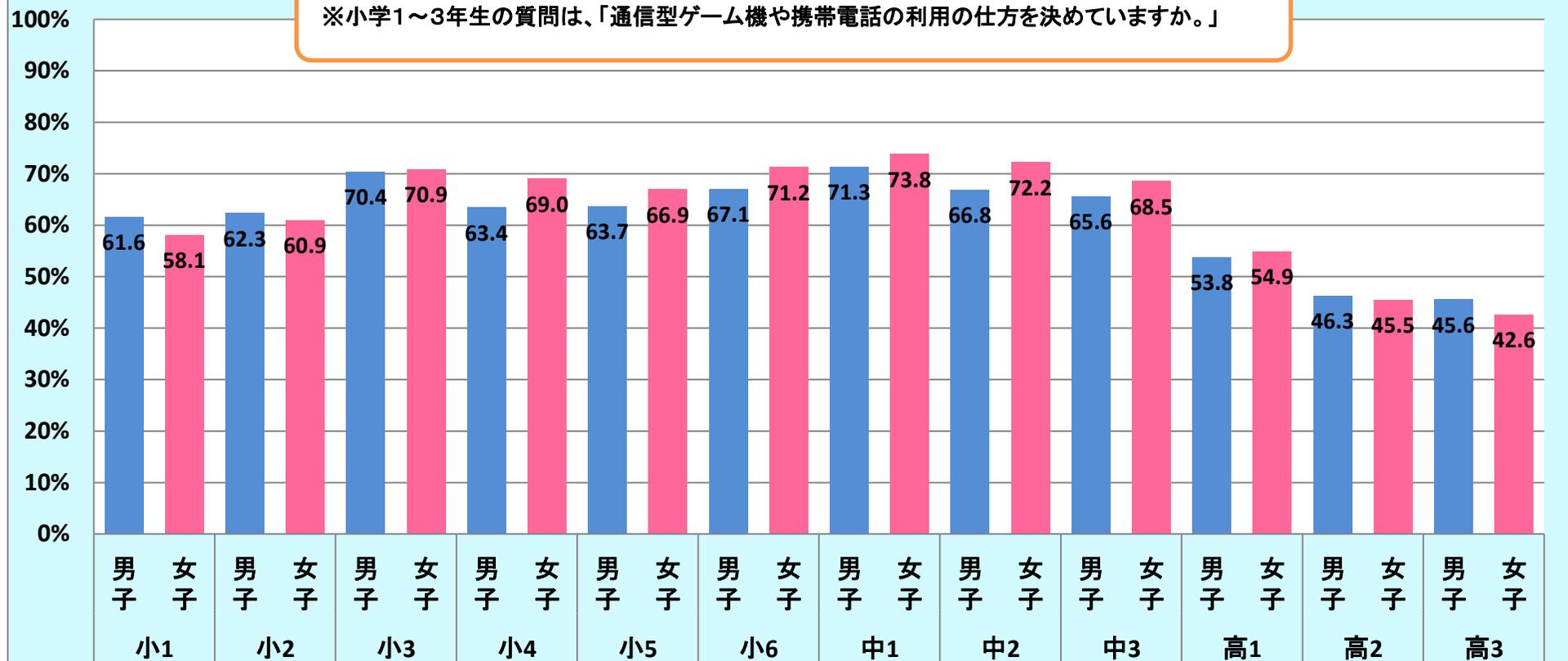
- ・全体的にどの学年も使用頻度が高い。
- ・前年度と比較し、ほとんどの学年で、「51回以上」使用する割合が増加又は同等の割合。

【指導・啓発ポイント】

- ・適切な使用方法や使用時間、使用回数等、親子で話し合い、互いに納得してルールをつくる必要がある。

Q14.あなたの家では自分が使う携帯電話の利用の仕方を決めていますか。

※小学1～3年生の質問は、「通信型ゲーム機や携帯電話の利用の仕方を決めていますか。」



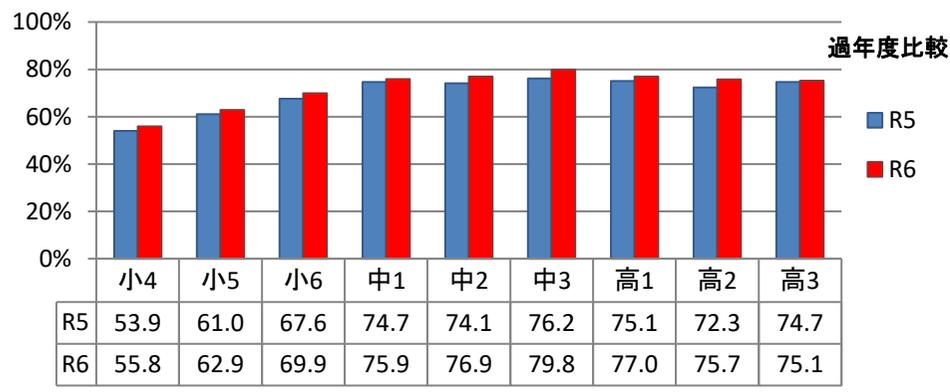
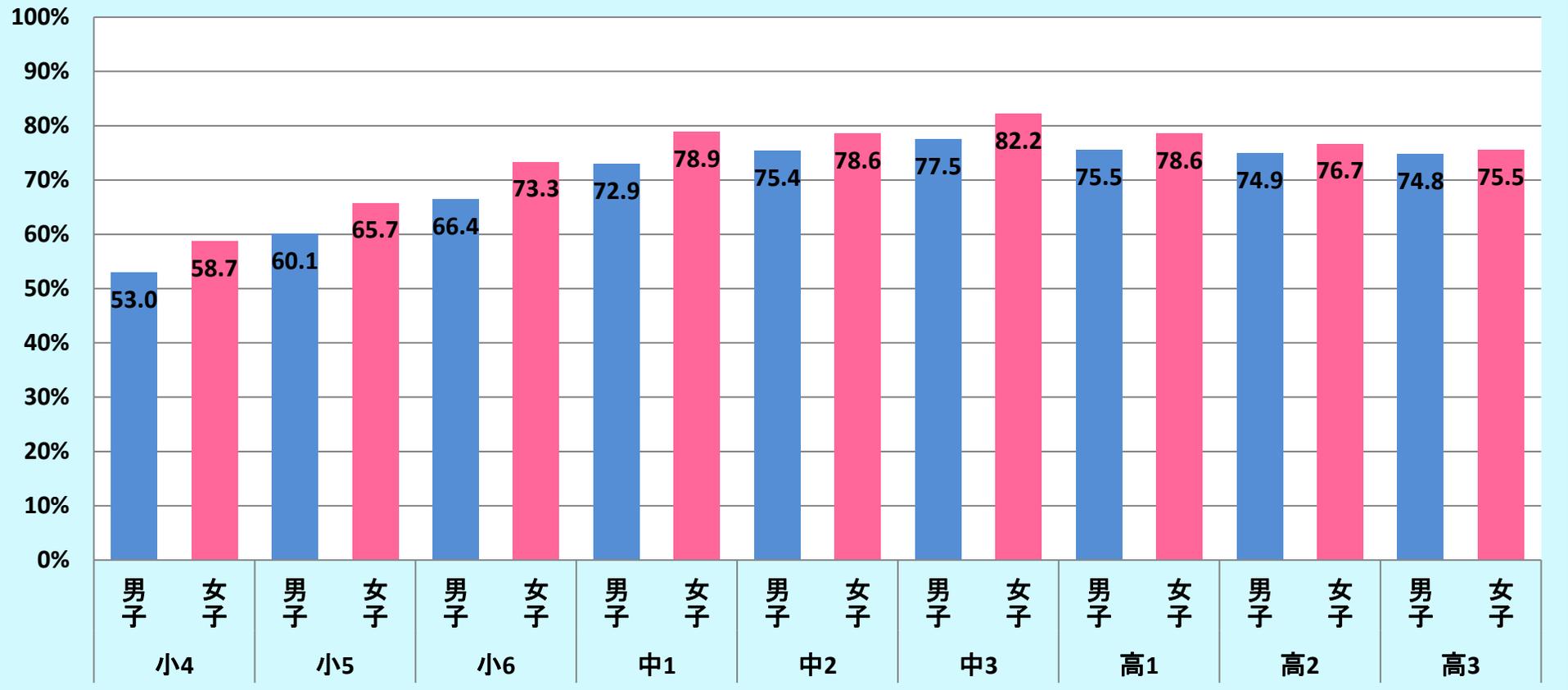
【傾向】

- ・前年度と比較し、ほとんどの学年で、「利用の仕方を決めている」割合が増加又は同等の割合。

【指導・啓発ポイント】

- ・保護者が子どもに携帯電話(スマートフォンを含む)を持たせた時、話し合っ家庭のルールをつくっていくことが必要。
- ・早い段階から、正しい利用の仕方やトラブルに発展する危険性について伝えていくとともに、必要に応じて、ペアレンタルコントロールを活用していただくよう周知することが必要。

Q15.家で情報モラルや携帯電話のマナーについて話を聞いたことはありますか。



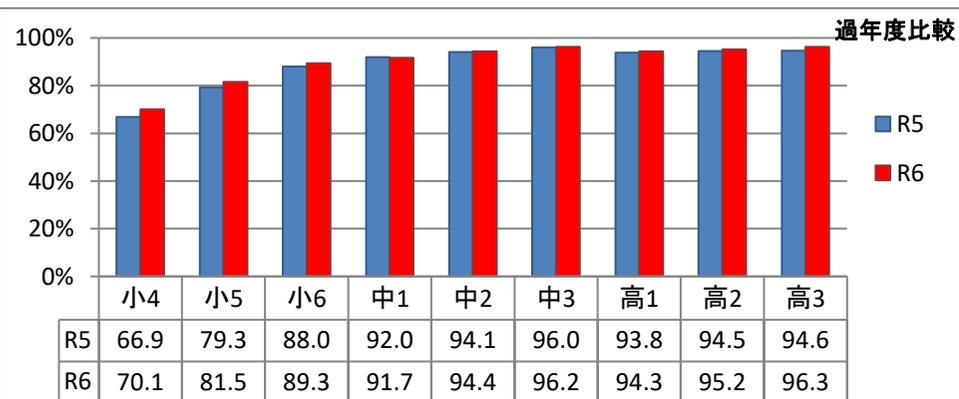
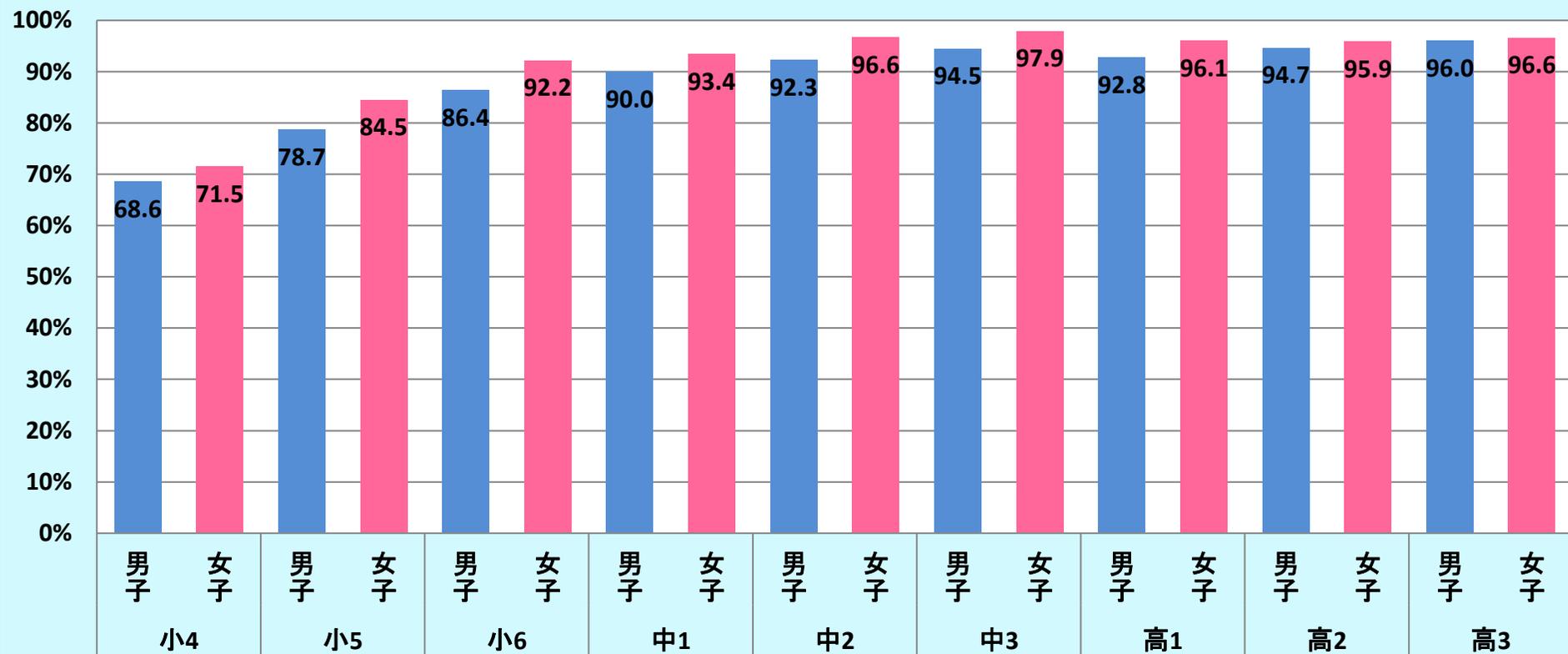
【傾向】

・前年度と比較し、すべての学年で、「話を聞いたことがある」割合が増加。

【指導・啓発ポイント】

- ・事件等の報道を機に、保護者が意図的に情報モラルやマナーについて話題にすることが必要。特に、小学校の早い段階から情報モラルやマナーについて話題にすることが必要。
- ・定期的に家庭のルールを見直すことが必要。

Q16.学校の授業(朝の会、帰りの会を含む)で、情報モラルや携帯電話のマナーについて勉強したことはありますか。



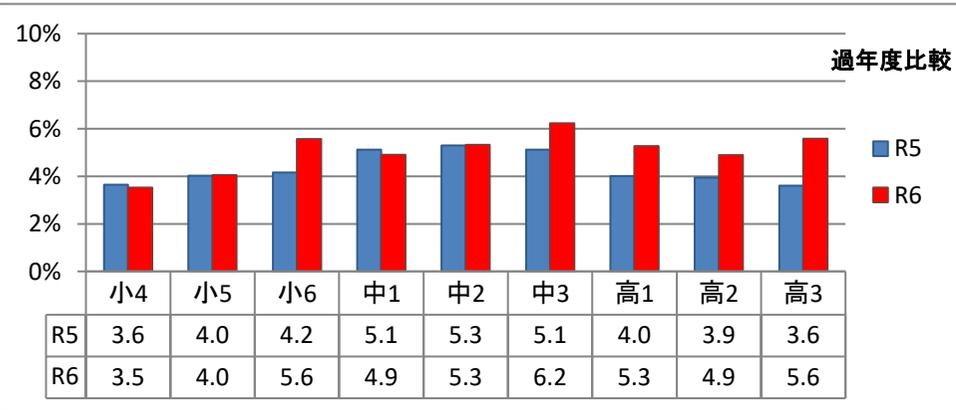
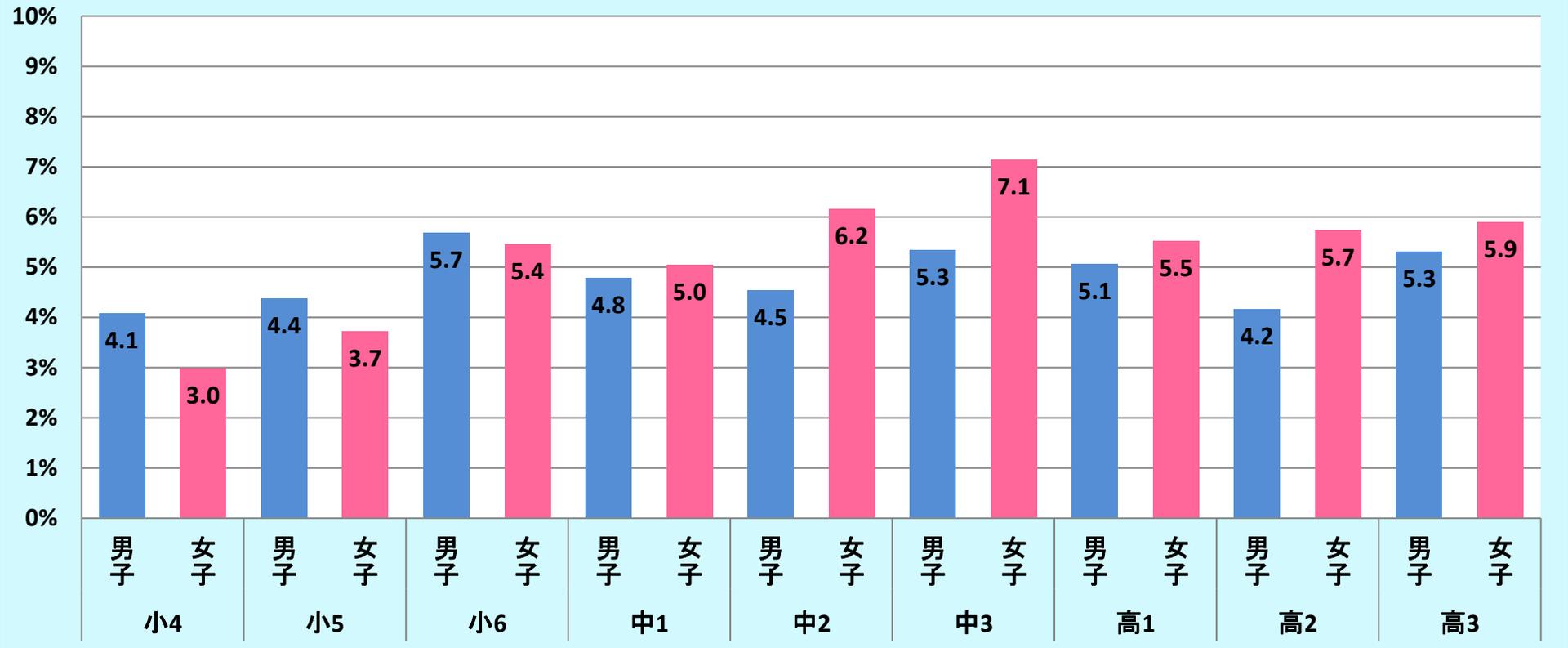
【傾向】

- ・中学校・高校では高い割合(90%以上)を示している。
- ・前年度と比較し、すべての学年で割合が増加。

【指導・啓発ポイント】

- ・今後も小学生の早い段階から、情報モラルについて継続的な指導が必要。
- ・情報モラルに関わる内容が報道されたとき、SHRや短学活等で意見交流するなど、日常的な指導が必須。

Q17.あなたは、インターネットや携帯電話のメールやチャット、SNSなどで、
被害を受けたり、嫌な思いをしたりしたことはありますか。



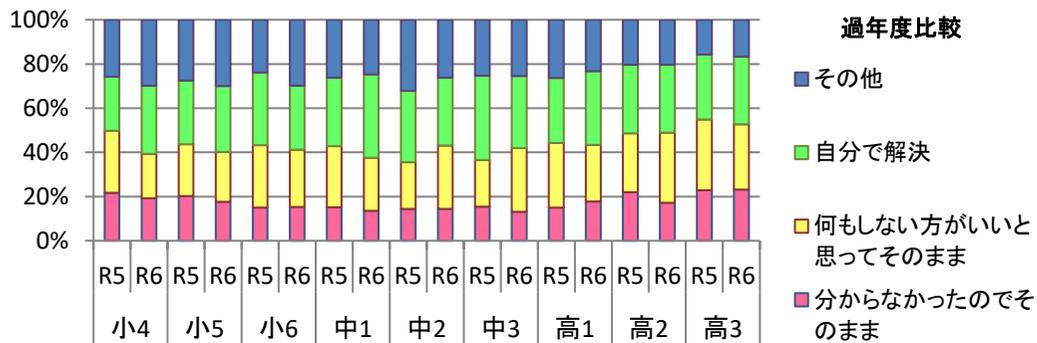
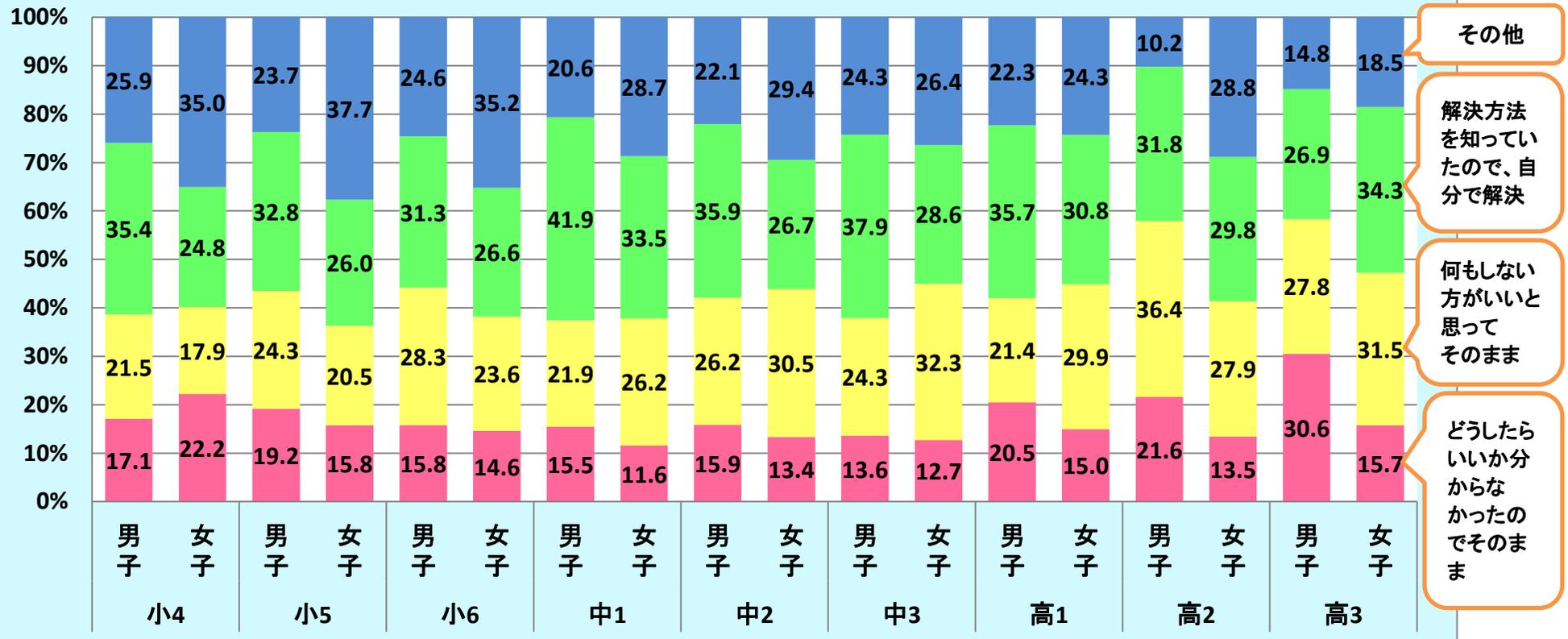
【傾向】

- ・中・高生は、女子のほうが高い割合を示す傾向。
- ・前年度と比較すると、小学6年生、中学3年生、高校生の増加が顕著。

【指導・啓発ポイント】

- ・ネット上の書き込みは、真意が伝わりにくい場合もあるため、やった本人に悪意がなくても、相手に嫌な思いをさせたならば、ネットいじめである。アップロードする前に、相手の気持ちに配慮した内容かどうかを十分に確認する必要があることを繰り返し指導する。

Q18.被害を受けたとき、どうしましたか。
(Q17で「ある」と答えた児童生徒のみ回答)



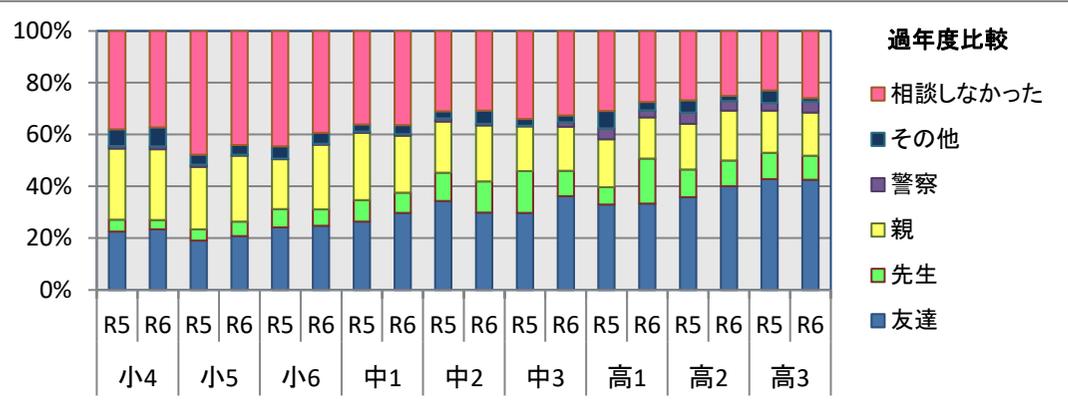
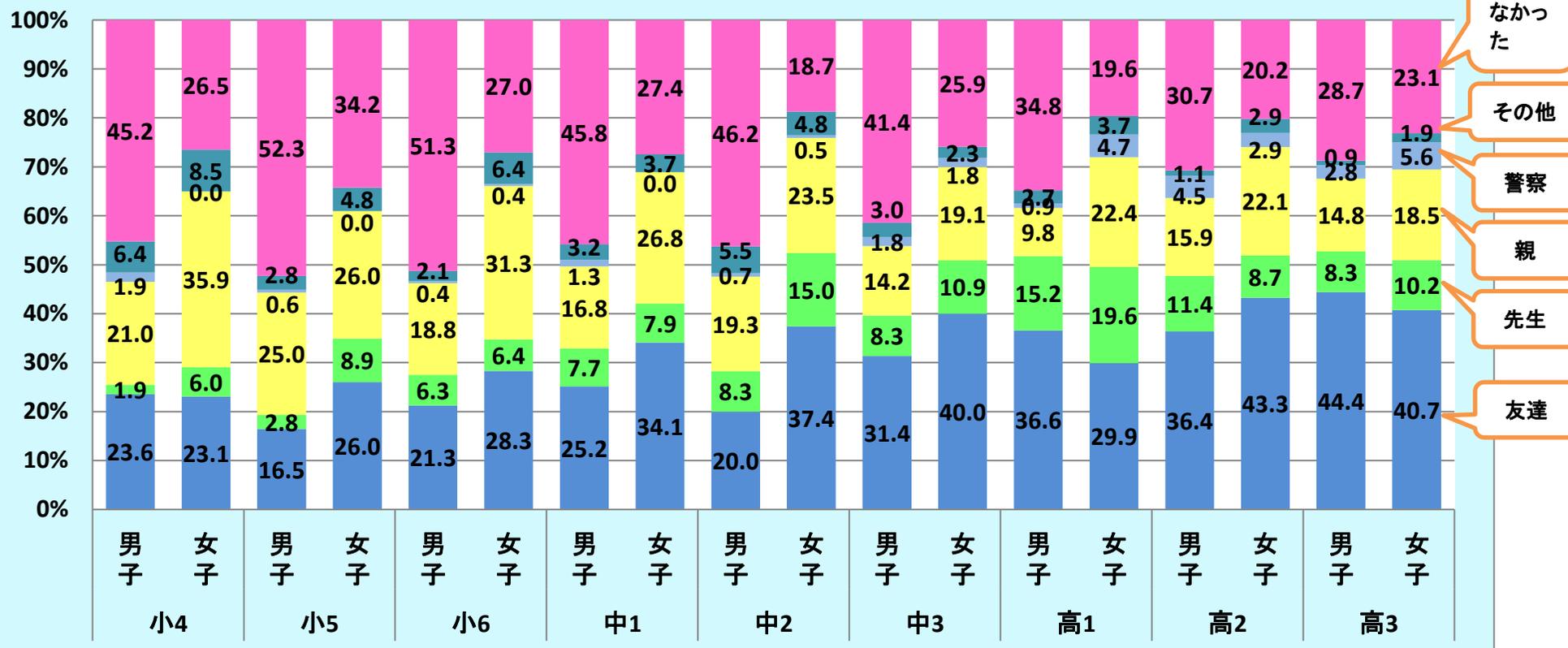
【傾向】

・「何もしない方がいいと思ってそのまま」「どうしたらいいかわからなかったのがそのまま」の割合を合算すると、どの学年も40%近くの割合を示している。

【指導・啓発ポイント】

・SNS等の使用頻度が高くなったことで、被害にあう可能性も高くなっている。トラブルを放置したり、一人で抱え込むことがないように被害を受けた際の対処法について指導する。

Q19.被害を受けたとき、誰かに相談しましたか。
(Q17で「ある」と答えた児童生徒のみ回答)



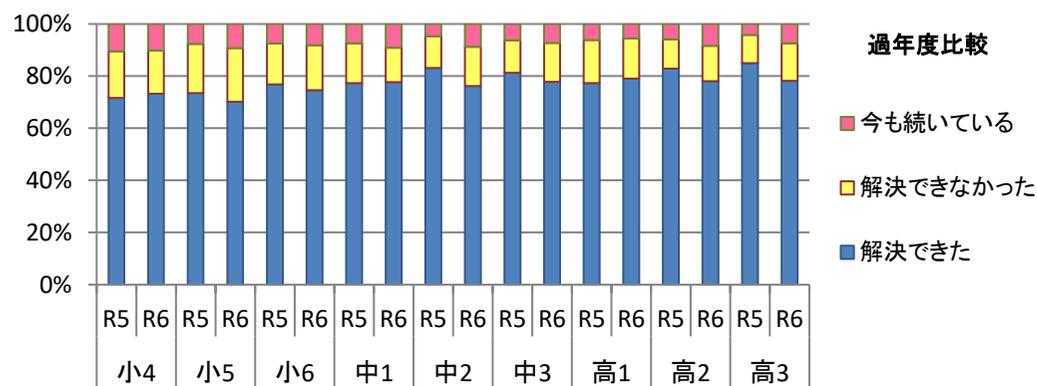
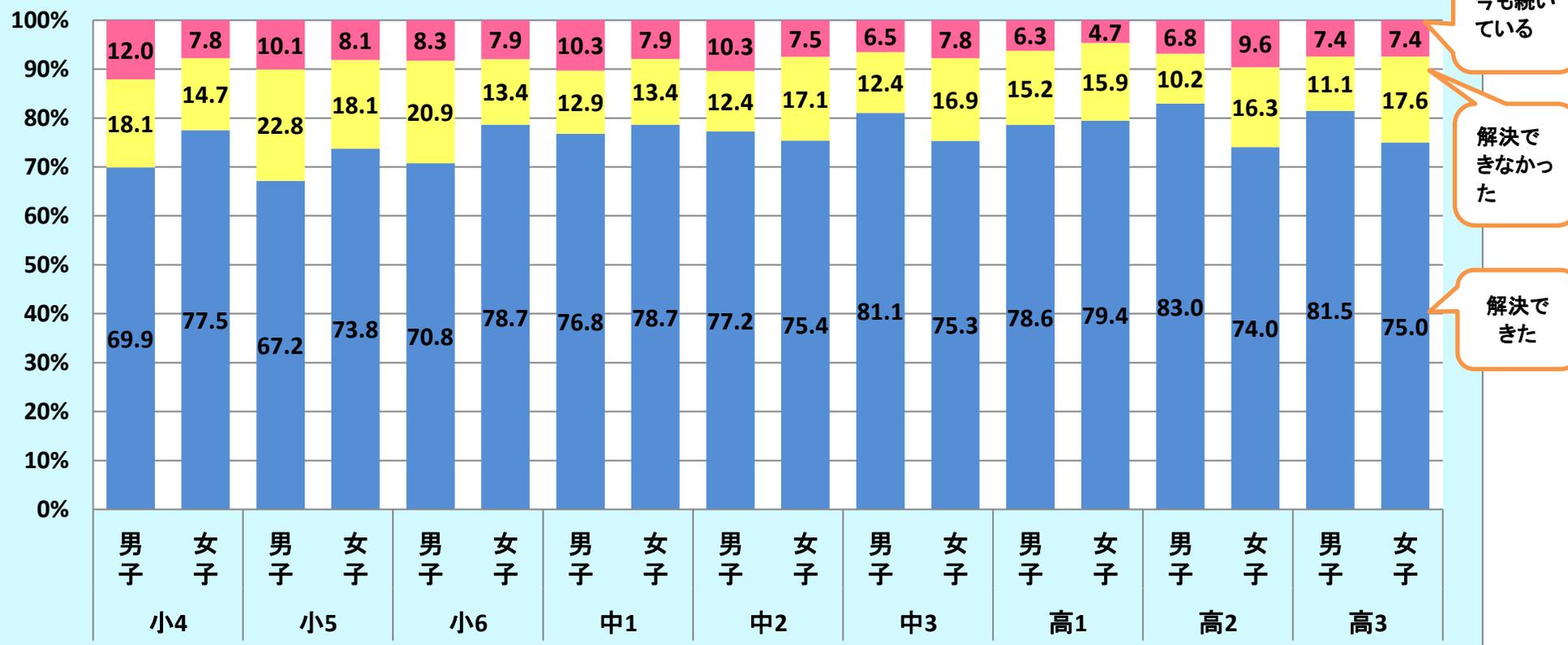
【傾向】

- ・どの学年も、男子の方が、被害を受けても誰にも相談しない割合が高い。
- ・前年度と比較し、先生・親に相談する割合が増加。

【指導・啓発ポイント】

- ・日常から安心して気軽に相談できる関係性を築くとともに、相談窓口の情報を定期的に周知する。
- ・友達で解決できない場合は、保護者等の身近な大人に相談し、素早く対処することの大切さについて啓発する。

Q20.被害は解決できましたか。
(Q17で「ある」と答えた児童生徒のみ回答)



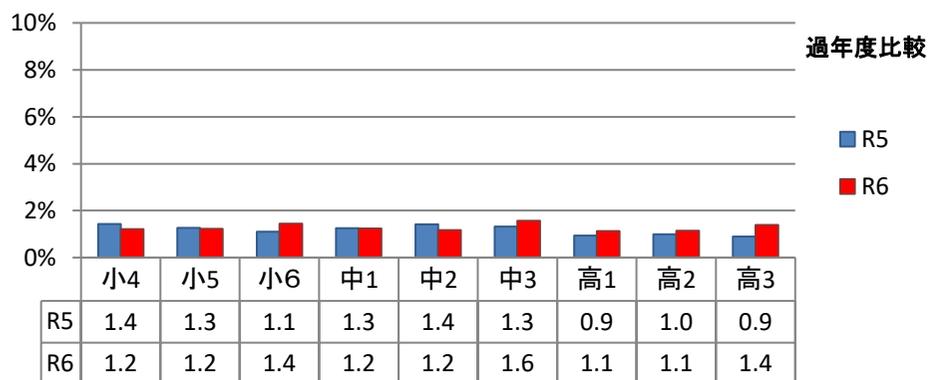
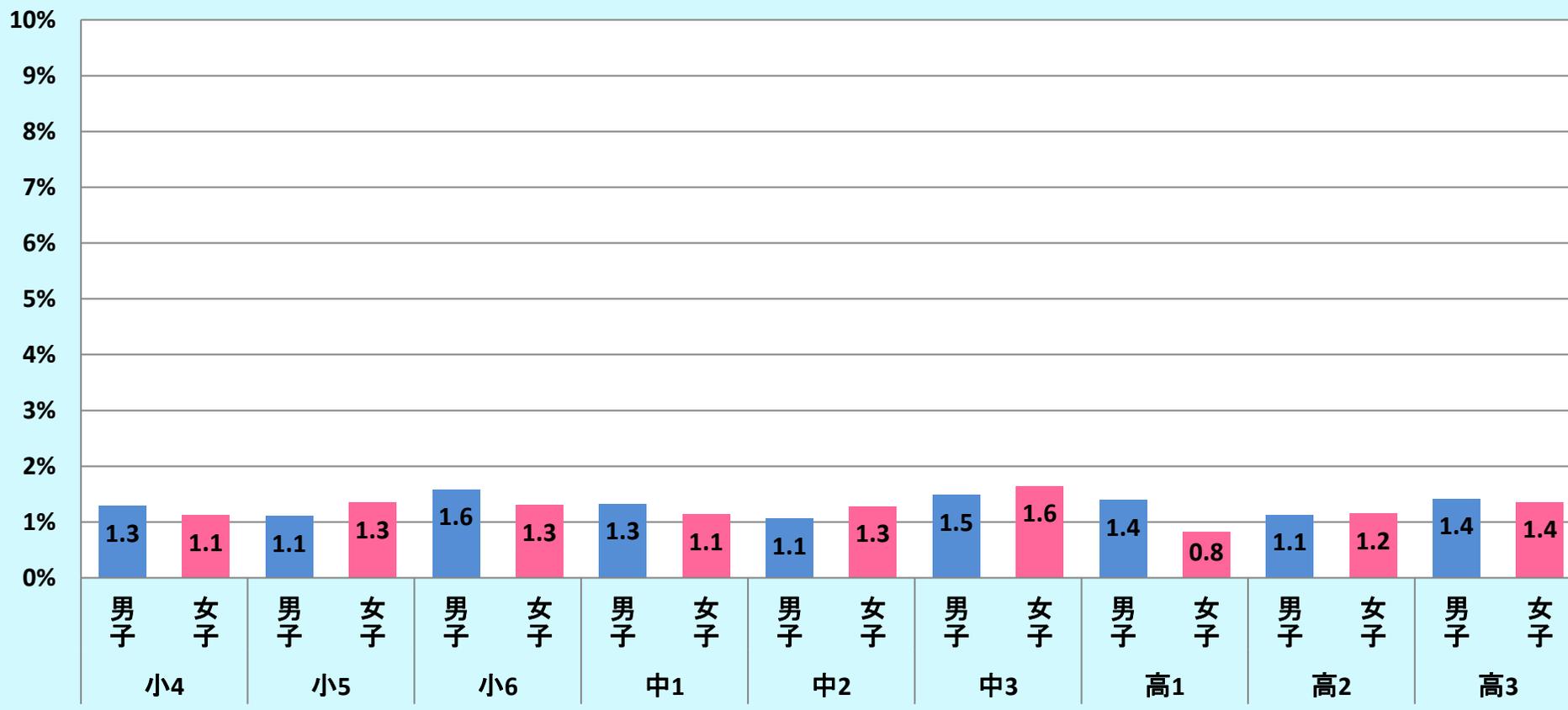
【傾向】

- ・「今も続いている」割合を、男女で合算すると、小・中学生が高い割合を示している。
- ・前年度と比較し、多くの学年が「解決できなかった」「今も続いている」の割合が増加。

【指導・啓発ポイント】

- ・被害がより拡大することがないよう、身近な大人(保護者や教員等)に相談するよう働きかける。
- ・外部の支援機関を有効に活用するよう周知する。

Q21.メールやチャット、SNSなどの書き込みで、いじめを受けたことがありますか。



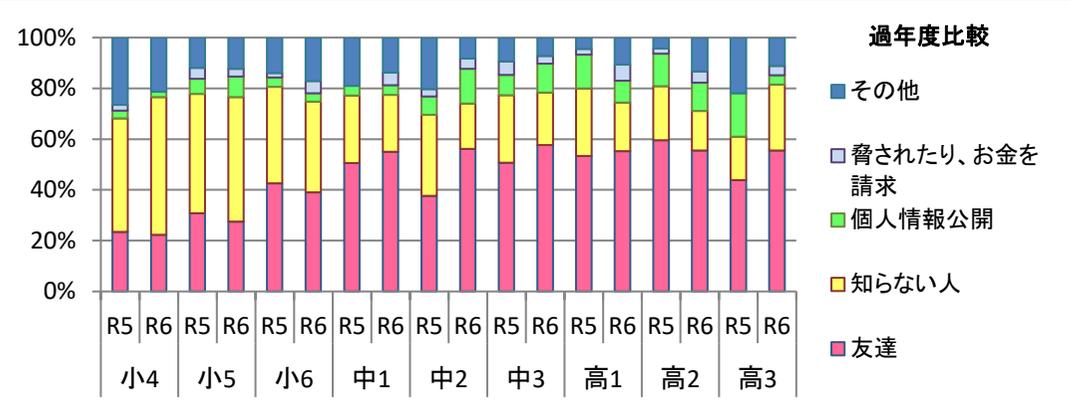
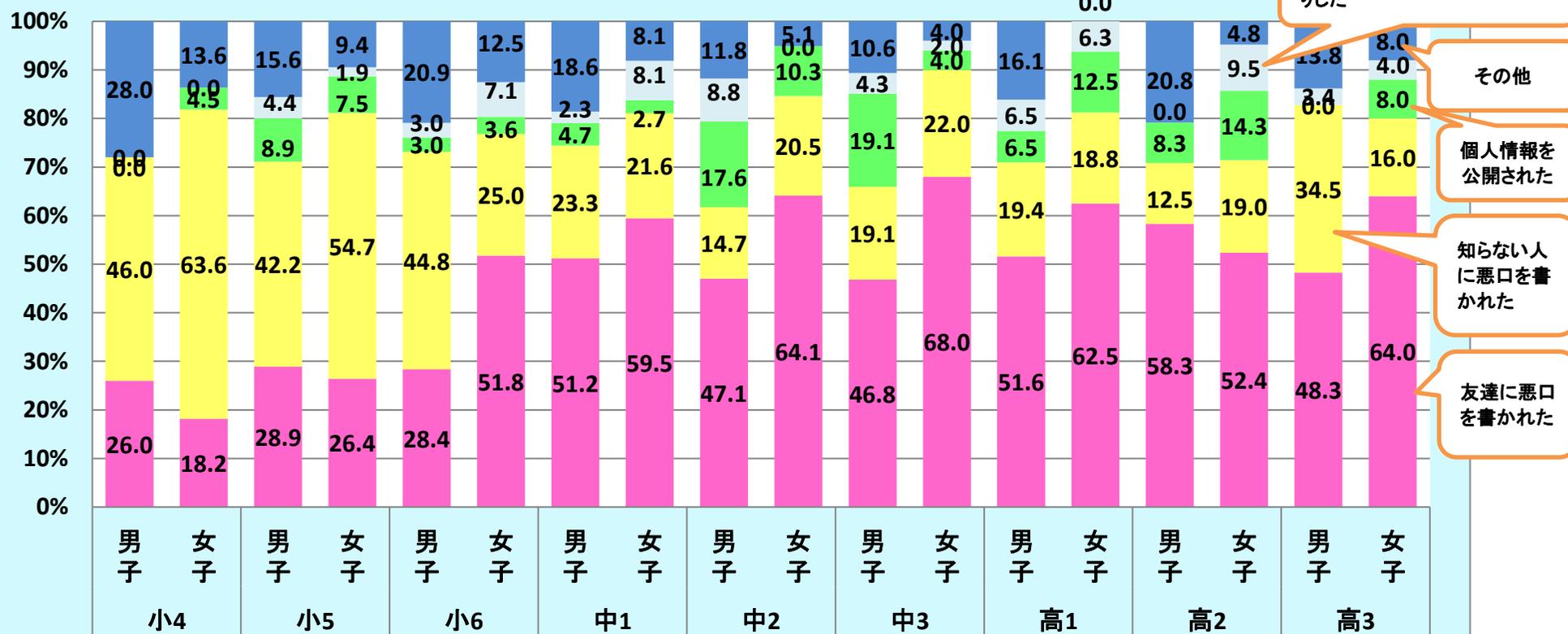
【傾向】

- ・「いじめを受けた」と回答した割合が全体的に増加傾向。
- ・前年度と比較し、小学6年生、中学3年生、高校生に増加が見られる。

【指導・啓発ポイント】

- ・書き込んだ本人ではなく、書き込まれた人が嫌な気持ちになるものは全てネットいじめであることを指導する。
- ・例え匿名の投稿であっても、相手の人権を尊重しなければならないことを、強調して繰り返し指導する。

Q22.いじめを受けたと感じた理由は何ですか。
(Q21で「ある」と答えた児童生徒のみ回答)



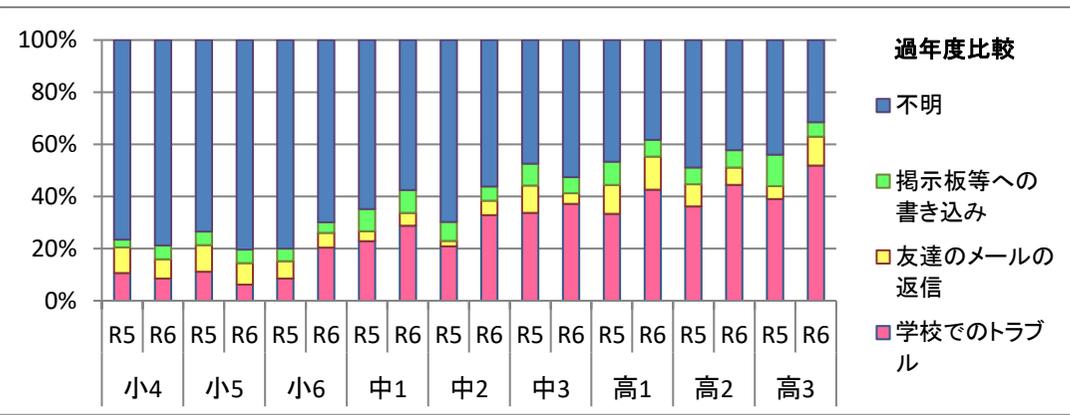
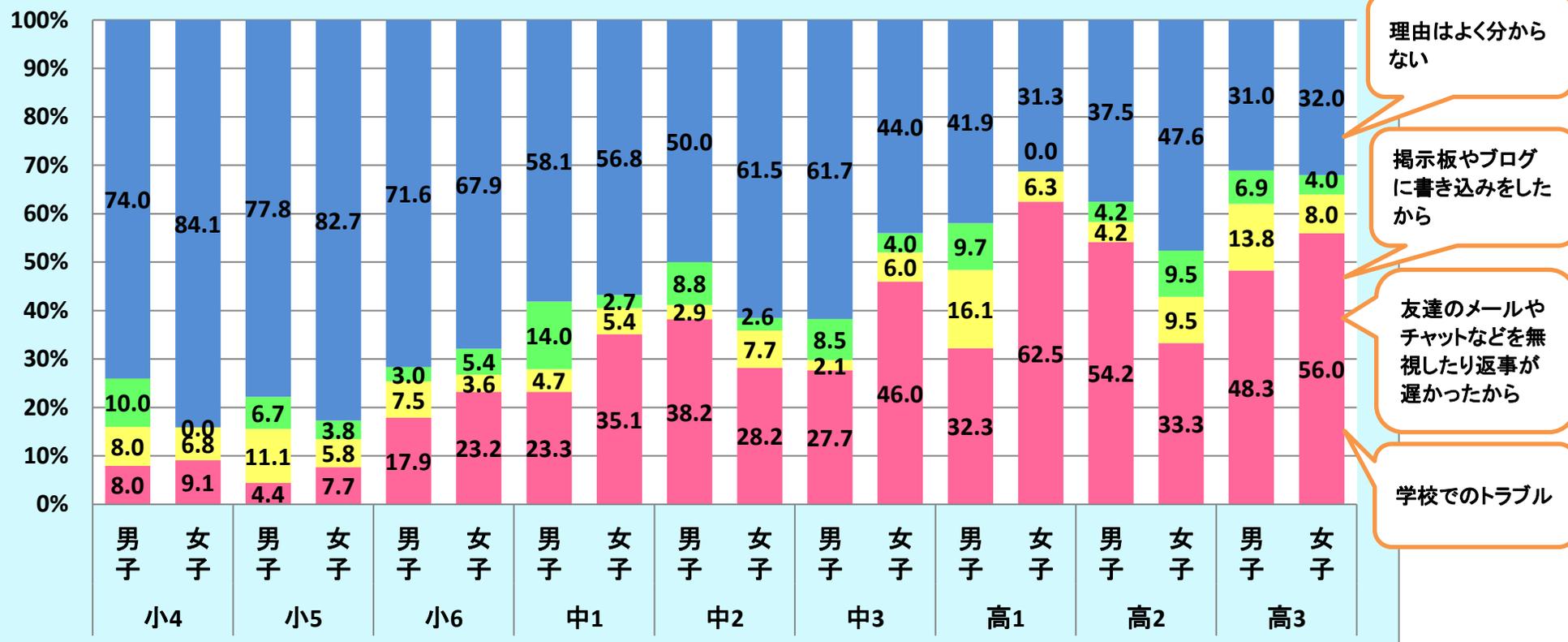
【傾向】

- ・「知らない人に悪口を書かれた」「友達に悪口を書かれた」割合を合算すると、どの学年も70%を超えている。
- ・「脅されたり、お金を請求されたりした」の割合が増加。

【指導・啓発ポイント】

- ・大きなトラブルや犯罪に発展する前に、SNS等の利用に潜む危険性を日常的に指導する。
- ・フィルタリングを含むペアレンタルコントロールの設定について、児童生徒だけでなく、保護者にも継続して啓発する。

Q23.何が原因でネットいじめを受けたと思いますか。
 (Q21で「ある」と答えた児童生徒のみ回答)



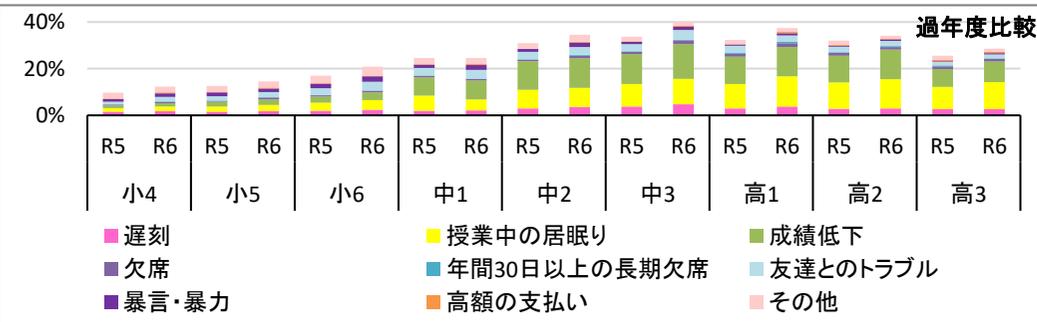
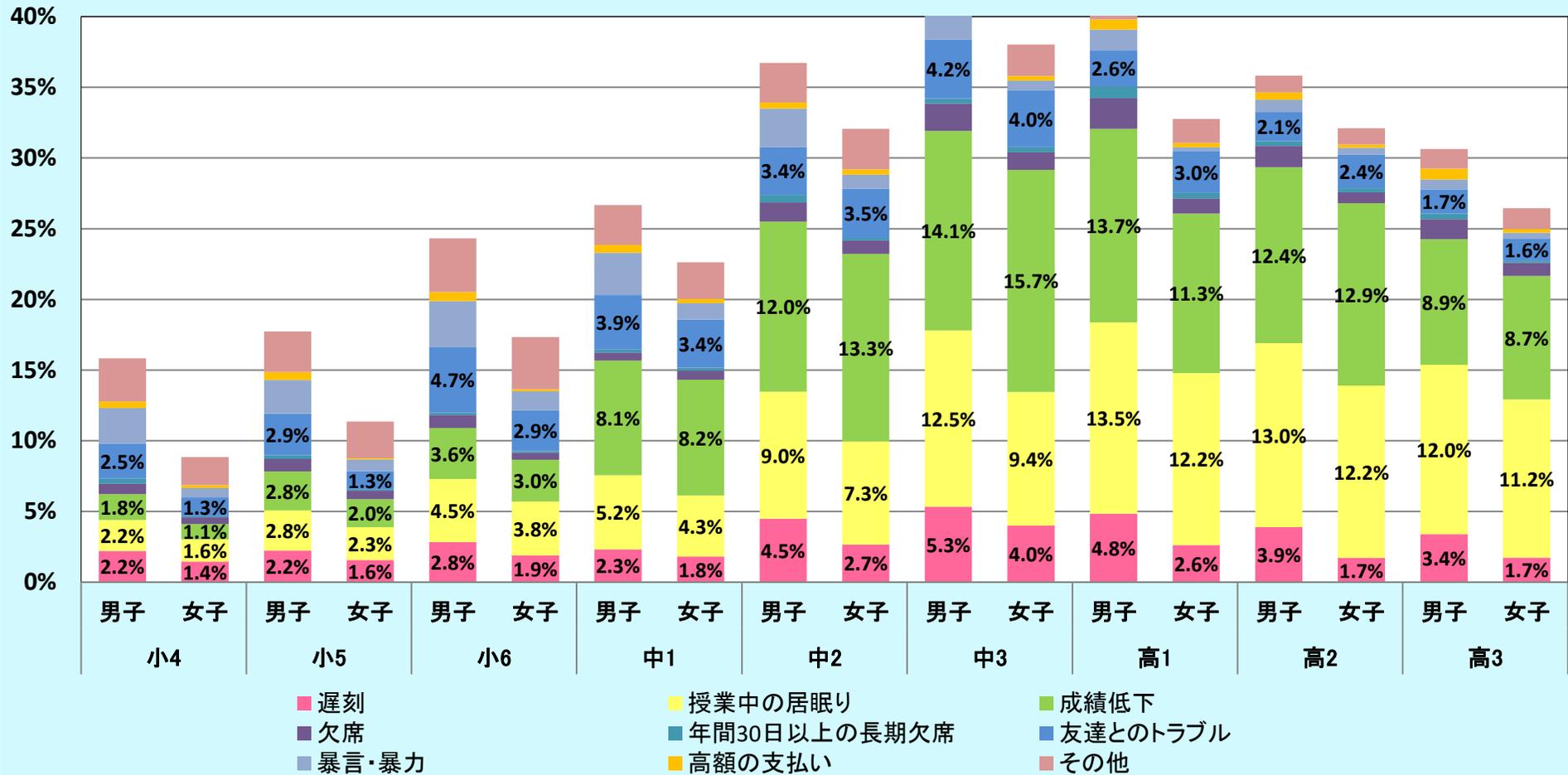
【傾向】

- ・全体的に、「理由がよく分からない」割合が高い。
- ・中高生は、「学校でのトラブル」に起因するネットいじめの割合が増加し高い傾向。

【指導・啓発ポイント】

- ・「理由がよく分からない」ネットいじめの被害を受ける危険性と対処方法について指導する。
- ・学校でのトラブルの延長で、ネットいじめに発展するケースが多いことから、日常の学校生活や人間関係について注視し、きめ細かな指導・助言が必要。

Q24.今までに、インターネットの使いすぎで、何か問題を起こしたことはありますか。



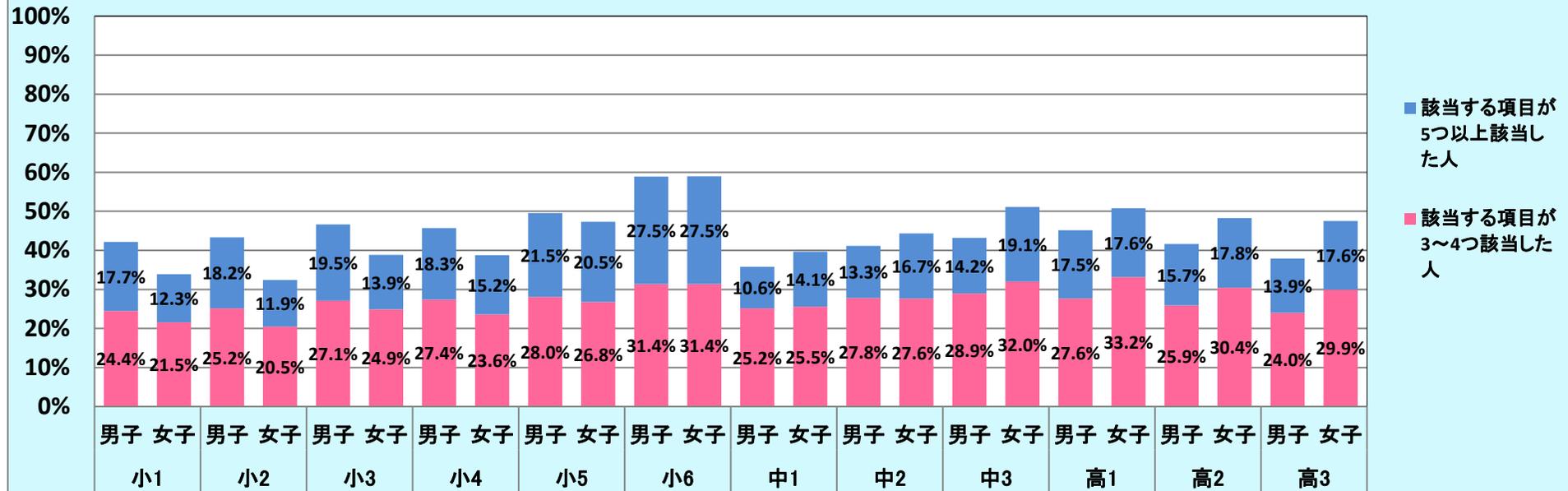
【傾向】

- ・中・高生は、特に「成績低下」と「授業中の居眠り」が大きな割合を示す。
- ・前年度と比較すると、すべての学年で問題が増加。

【指導・啓発ポイント】

- ・インターネットの長時間利用による、学校生活や日常生活に及ぼす悪影響の大きさを認識させ、丁寧に指導していくことが必要。

ネット依存傾向について



項目
インターネットに夢中になっていると感じている。
満足感を得るために、インターネットの使用時間を長くしていかねばならないと感じている。
インターネットの使用を制限したり、完全にやめようとしたが、うまくいかなかったことがたびたびあった。
インターネットの使用制限や完全にやめようとしたとき、落ち着かなかったり、不機嫌な気持ちや落ち込み、イライラなどを感じた。
使用前に考えていたよりも長い時間インターネットに接続していたことがある。
インターネットが原因で、人間関係や学校、部活動のことを台無しにしたり、危うくしたりするようなことがあった。
インターネットへの熱中のし過ぎを隠すために、家族や学校の先生、その他の人に向そをついたことがある。
問題から逃げるため、また絶望的な気持ちや罪悪感、不安、落ち込みなどといった嫌な気持ちから逃げるために、インターネットを利用する。

【傾向】

- ・小学生は男子に依存傾向が強く見られる。
- ・前年度と比較し、全体的に依存傾向が強くなっている。特に、小学生は、高い割合を示している。小学6年生が顕著。

【指導・啓発のポイント】

- ・Q3より、男子児童は通信型ゲーム機の使用時間が長いことから、保護者と話し合い、家庭のルールを設定したり、見直したりすることが必要。
- ・Q5より、スマートフォンの所持率の増加していることから、フィルタリングを含むペアレンタルコントロール設定の重要性について啓発していく。
- ・Q10より、自分のホームページ(ブログ・インスタ等を含む)の開設率が増加しているため、情報の取り扱いが様々な事件につながっていることについて継続した指導が必要。
- ・5つ以上該当した児童生徒は、ネット依存の傾向が強い。3~4つ該当した児童生徒もかなり注意を要する状況にある。その為、学校に相談することを促すとともに、スクールカウンセラーや医療機関につなぐことも考えていかなければならない。